

	ごあいさつ	1
<b>I</b>	<b>地域創生推進機構</b>	<b>3</b>
	組織図	4
	沿革	5
	令和4年度スケジュール	6
	トピックス	7
	地域創生推進機構総合企画室	12
<b>II</b>	<b>社会共創促進センター</b>	<b>13</b>
	センター概要	13
	相談窓口業務	14
	展示会への出展、セミナー等参加	18
	URAの活動	19
<b>III</b>	<b>イノベーション支援センター</b>	<b>23</b>
	センター概要	23
	イノベーション部門	24
	知財部門	29
<b>IV</b>	<b>宇大アカデミー</b>	<b>34</b>
	概要	34
	公開講座	35
	UUカレッジ	41
	宇大未来塾	48
<b>V</b>	<b>関連団体・その他</b>	<b>58</b>
	関連団体 宇都宮大学産学交流振興会	58
	関連団体 大学コンソーシアムとちぎ・サテライトオフィス事業委員会	59
	発行物一覧	60

## ごあいさつ



宇都宮大学  
学務・社会共創担当理事  
地域創生推進機構 機構長  
吉澤 史昭

宇都宮大学では地域との連携関係を一層強化し、地域の「知の拠点」として社会のニーズに応えるために、学内の諸機関を整理統合して、平成30年4月に地域創生推進機構を設置しました。そして、設置から3年が経過した令和3年4月に、「社会との共創」の実現を支援するために「社会共創促進センター」を新たに設置し、「宇大アカデミー」、「社会共創促進センター」、「イノベーション支援センター」からなる新生地域創生推進機構として再スタートしました。再スタート2年目の取り組みをご報告させていただきます。「共創（Co-Creation）」は、多様な立場のステークホルダーと対話しながら、ともに新しい価値を生み出していく考え方のことで、「みんなで力を合わせてやろう」というような“ゆるい共同”ではなく、「本当に志を共有できる相手と共に創造する」という意味合いが強い言葉です。宇都宮大学の「地域創生推進機構」は、志のある地域の多様な主体と本学の教職員・学生を繋いで、互いに得意な役割を担いあう良いチームを創ることで、新たな社会価値を創造し、未来を拓く変革を先導することをミッションとしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



社会共創促進センター  
センター長  
松井 正実

社会共創促進センター長の松井でございます。地域創生推進機構令和4年度事業報告書を刊行するにあたり、みなさまに一言ご挨拶をさせていただきます。

社会共創促進センターは、自治体や産業界等の多様な外部との連携・共創の窓口と、地域のシンクタンク機能の役割を担っており、本学の研究成果や人的資源を活用した人材育成を行うこと、地域イノベーションを惹起することを目標に、様々なニーズにお応えする窓口として努力しています。

具体的には、コラボレーション・フェアの開催や学外イベントに参加して本学の研究成果を発信すること、これにより多様なマッチングを創出すること、みなさまからいただくご相談に最適なソリューションをご提案させていただくこと、また、さまざまなデータに基づく詳細な分析から、自治体のみなさまとともに地域のニーズを発掘し、活性化策をご提案することなどを通じて、地域の振興ならびに活性化に貢献することを目指しています。

みなさまにおかれましては、これまでと変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。



イノベーション支援センター  
センター長  
高山 善匡

イノベーション支援センターの役割は、本学の研究を地域イノベーションの創生に繋げる活動ならび知的財産管理に基づいて研究成果の社会実装を促す活動を通して、産学官金連携を推進することです。学内の優れた研究計画・研究成果を社会に還元するため、人材とスペースの提供、海外研究者との連携支援等を通じて研究の芽を育てていきます。また、産学連携の基盤となる知的財産の管理と出願を支援します。加えて、今後はアントレプレナーシップ教育さらには大学発スタートアップの創出に関わる起業の支援と起業マインドの醸成にも力を尽くしてまいります。

このようなセンターの活動を遂行するためには、これまでも増して、産業界、地方自治体、金融機関、他大学との幅広い連携・共創を進めることが重要であると考えております。本学社会共創促進センターとも連携しながら、イノベーション創生に繋がるよう努力致しますので、本センターの活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



宇大アカデミー ディレクター  
天沼 実

本学では、多種多様かつ身近で今日的なテーマをそろえた「公開講座」と次世代の企業人材育成に貢献する「宇大未来塾」など質の高い生涯学習・リカレント教育プログラムを地域社会に提供する取り組みを進め、おかげさまでご愛顧、ご好評をいただいております。平成30年10月からは、正課授業の開放により継続的・発展的な学びの場を提供する「UUカレッジ」を新設するとともに、これら3部門を「宇大アカデミー」として再編しました。ユニバーサル・アクセス時代、人生100年の時代の「知の拠点」たる大学として、地域の市民や企業人の皆様により良い学び・学びなおしを続けていただくため、学びにアクセスしやすく続けやすい仕組み作りや環境の整備・拡充を進めています。本学の教育資源の活用と地域の人材育成・人的ネットワークの発展への貢献を軸としたリカレント学習教育機能の強化により、より一層の地域貢献を果たしてまいります。

# I

## 地域創生推進機構

宇都宮大学では地域との連携関係を一層強化し、地域の「知の拠点」として社会的なニーズに応えるために、平成30年4月に学内の諸機関を統合して地域創生推進機構を創設しました。

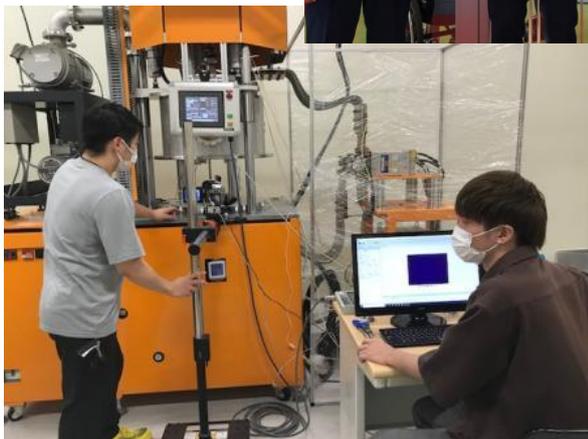
さらに、令和3年4月には、地域や産業界と双方向の関係性で「共創」していくことが今後益々重要になるとの認識の下、組織改編を行いました。具体的には、地域のシンクタンク機能及び自治体、産業界、金融機関等の多様な組織との連携を強化するため、それまで産学連携と地域連携で分かれていた窓口を1本化し、共創のための総合窓口としての役割を担う「社会共創促進センター」を新設しました。

センターの新設に伴い、専任教員を配置しただけでなく、リサーチ・アドミニストレーター(URA)やコーディネーター(CD)、機構を所管する地域創生推進支援室の職員が、一つの部屋に入り、持ち込まれる相談への対応や共同研究等の促進を図るための環境整備も行われました。

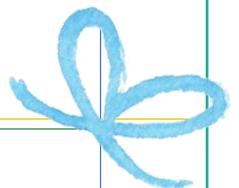
現在、地域創生推進機構は「社会共創促進センター」のほか、産学官金連携による地域イノベーションの創出を支援・推進し、研究成果の社会実装を促進する「イノベーション支援センター」、一般市民や企業人等を対象にして、人生100年時代における社会人の学びを推進する「宇大アカデミー」、機構全体をトータルマネジメントする「総合企画室」により構成されています。



社会共創促進センター



イノベーション支援センター



宇大 未来を。 延長線上にない 次の橋木。 次の自分。

第6期 前期全9回 募集

とちぎ 志士プログラム

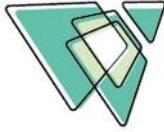
オンライン

6.22 - 9.7

20歳～45歳以下の社会人で、自分の未来や可能性を広げようとする意欲のある者へ

宇大アカデミー

宇大アカデミー



地域創生推進機構  
Institute for Social Innovation and Cooperation

総合企画室

地域創生推進支援室

機構、各センターの運営等

総合窓口・コーディネーション



宇都宮大学 地域創生推進機構  
社会共創促進センター  
Center for Promotion of Social Co-creation

*Mission*

地域(地方自治体、地域企業、NPO等)との連携による、共創的実践活動

地域連携部門

産学連携部門

技術・知財支援



宇都宮大学 地域創生推進機構  
イノベーション支援センター  
Center for Innovation Support

*Mission*

産学官金連携を基盤に地域イノベーションを支援・創出

イノベーション部門

知財部門

ライフシフトのための教育支援



宇都宮大学 地域創生推進機構  
宇大アカデミー  
UU Academy for Recurrent Education

*Mission*

一般市民や企業人等を対象にして社会人の学び直しを推進

公開講座

UUカレッジ

宇大未来塾

◆学外関連団体

産学交流振興会

宇都宮大学の地域連携・産学連携を担う部門が行う事業を支援し、産学官の交流を促進することで、地域産業の振興に貢献することを目指しています。主な会員は県内に活動拠点を持つ企業や経済団体です。



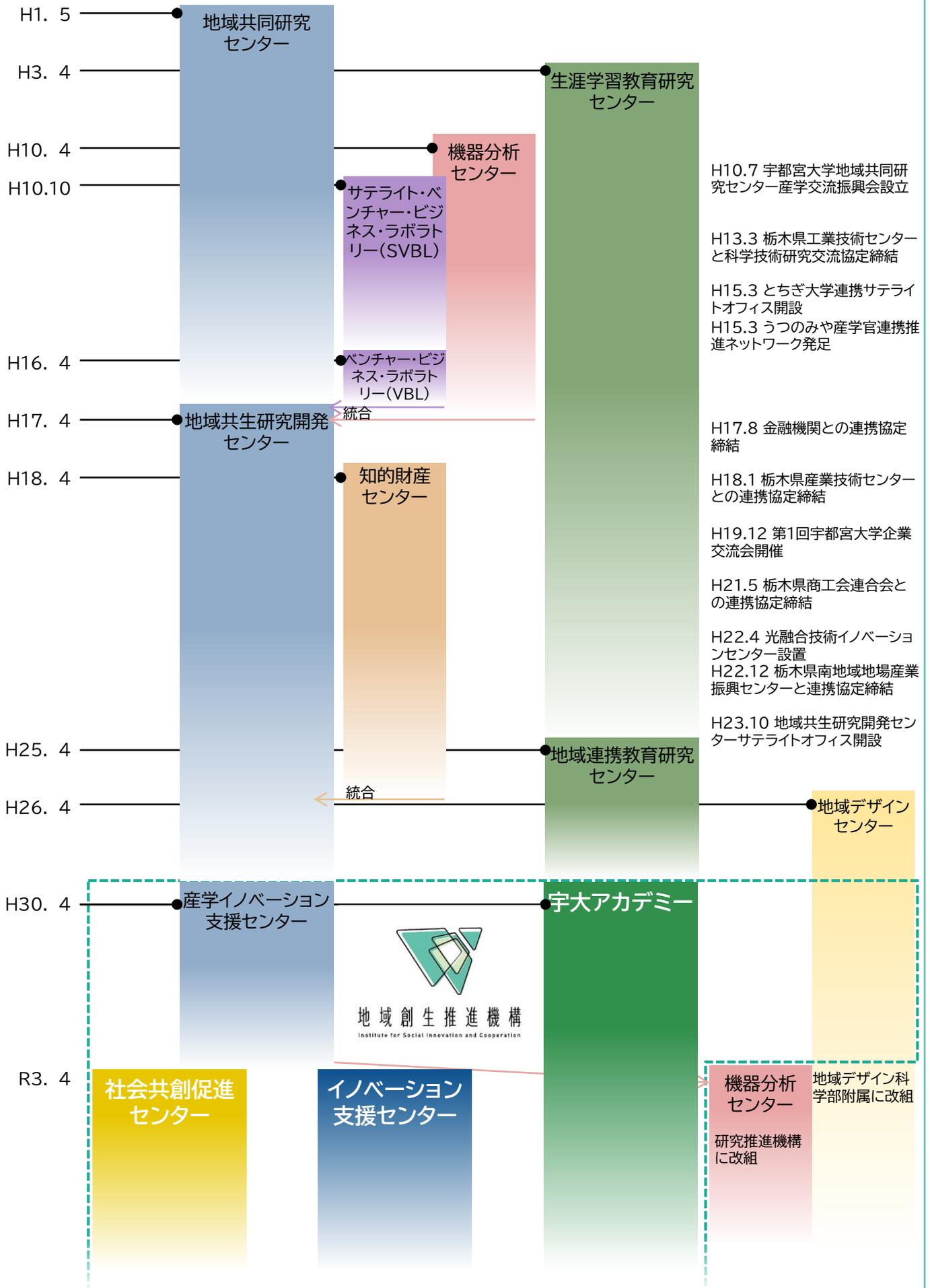
大学コンソーシアムとちぎ

栃木県内の18の高等教育機関は、相互の連携・交流を強化し、各大学等の教育・研究を充実・発展させると共に、広く地域社会や産業界の活性化に貢献するため、「大学コンソーシアムとちぎ」を設立し、魅力ある栃木県づくりを目指しています。地域創生推進機構は、コンソーシアムの地域連携・産学官連携活動に積極的に参加しています。

産学官連携サテライトオフィス

「大学コンソーシアムとちぎ」の事業委員会の一つで、栃木県内の企業と大学とが連携するためのコーディネート場の場です。宇都宮大学を含む栃木県内の13大学・高等教育機関による事業委員会が運営を担っています。本機構が担当機関として、産学官連携を促進する活動を支援しています。

# 沿革



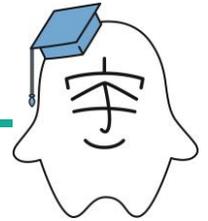
## 地域創生推進機構 令和4年度 スケジュール

4月	●4/1非常勤研究員着任
5月	
6月	●6/2UUカレッジ再開通知 ●6/22-9/7宇大未来塾「とちぎ志士プログラム(前期)」開講
7月	●7/4-1/21公開講座開講(全20講座) ●7/7,9UUカレッジ在籍者説明会 ●7/16-7/30社会教育主事(一部科目指定)講習開講 ●7/23UUカレッジ新規受講者説明会・出願受付 ●7/25-8/19社会教育主事(資格付与)講習開講 ●7/29産学交流振興会理事会・定期総会・講演会
8月	●8/19-9/20UUカレッジCラーニング説明会
9月	●9/10UUカレッジ後期受講前オリエンテーション ●9/16-10/21産学交流振興会共同研究助成募集 ●●9/29第3回コラボレーション・フェア開催
10月	●10/3UUカレッジ後期受講開始 ●10/5-11/16宇大未来塾「とちぎ志士プログラム(後期)」開講 ●10/21-12/9宇大未来塾「ニューフロンティアプログラム」開講
11月	●11/15-CDI非常勤研究員募集 ●11/27CDI海外派遣若手研究者アメリカ合衆国派遣 ●11/18-12/16産学交流振興会共同研究助成追加募集 ●11/20令和3年度第1回無料オンライン公開講座開催 ●11/27令和3年度第2回無料オンライン公開講座開催
12月	●12/1-令和5年度事業募集(CDI海外派遣若手研究者・CDI招聘外国人研究者・研究開発スペース利用) ●12/3-3/4宇大未来塾「次世代経営マネジメントプログラム」開講 ●12/3第19回学生&企業発表会開催
1月	●1/5-31メンターとの学年末個別面談 ●●1/20第7回オンラインサロン ●1/25CDI招聘外国人研究者講演会
2月	●UUカレッジ後期受講終了 ●2/18全体振り返り会・R5年度前期受講科目申請受付
3月	●3/3CDI-Mission報告会 ●●3/10第8回オンラインサロン ●3/20とちぎニュービジネス協議会3月全体例会

●地域創生推進機構 ●社会共創促進センター ●イノベーション支援センター ●宇大アカデミー  
●関連組織(産学交流振興会、大学コンソーシアムとちぎ)

# Topic 1

## 第3回 コラボレーション・フェア



令和4年9月29日に宇都宮大学峰キャンパスで、第3回宇都宮大学コラボレーション・フェアが開催されました。実に3年ぶりの対面式。毎年開催するコラボフェアですが、過去2年はコロナ禍のため、中止やオンライン開催でした。今年のテーマは「地域と共に。サステナブルな未来へ。」のもと、持続可能な地域の未来を共に創るため、大学をもっと身近な存在に感じてもらうことを目標としました。

第1部では、カーボンニュートラルをテーマとした基調講演が行われました。講演者は、宇都宮大学の古澤毅教授、三木英了教授、横尾昇剛教授、日光市の小林岳英企画総務部長。関連する研究内容や地域づくりについてのご講演でした。

講演者によるパネルディスカッションが行われ、会場に訪れた宇都宮白楊高校の生徒からも質問があがるなど、活発な質疑応答がなされテーマへの関心の高さがうかがえるものでした。今後のこの分野での宇都宮大学の貢献が求められています。

第2部では、パネルにポスターを展示して個別に発表する方式で、来場者は発表者から直接説明を受けることができ、情報交換しやすいのが特徴。今年のパネル数は134あり、さまざまな分野の研究発表に触れることができました。前年度、振興会の共同研究助成制度を活用した研究発表もありました。宇都宮大学に加え、県内を中心とした企業、自治体、教育機関などによる研究や事業活動の発表の場であり、367名の方が参加されました。

宇都宮大学の研究者や他の企業と交流を図れる貴重な場であり、コラボレーション・フェアが「共創のきっかけ」となることを期待します。



峰が丘講堂

第3回  
**宇都宮大学  
コラボレーション  
フェア** 3C (Challenge, Change, Contribution)  
+1 (Creation)+1 (Collaboration)

宇都宮大学と  
共創したい  
皆様へ

地域と共に。サステナブルな未来へ。

日時 令和4年9月29日(木) 13:00~17:00 参加費 無料

場所 宇都宮大学 峰キャンパス(栃木県宇都宮市峰350)

開催趣旨  
宇都宮大学地域創生推進機構は令和3年度組織を改編し、自治体や産業界など幅広い分野の皆様と次の時代を“共に”創るための総合窓口として「社会共創促進センター」を設置いたしました。地域イノベーションの創出、知財管理に基づく研究成果の社会実装促進を担う「イノベーション実装センター」、教育連携を担う「宇大アカデミー」と一体となって産学官金連携やリレント教育等を推進することで知の拠点として、より一層地域社会の発展に寄与してまいります。

今回のコラボレーション・フェアでは、持続可能な地域の未来を共に創るため、大学をもっと身近な存在に感じてもらうことをテーマとしています。本学のさまざまな分野の研究成果や地域との連携事例をわかりやすく紹介するとともに、サステナブルな社会を実現するカーボンニュートラルをテーマとした講演会も行います。本フェアをきっかけに、皆さまとの連携を深めて、地域に貢献してまいります。ぜひご参加をお待ちしております。

プログラム

第1部 講演会  
宇都宮大学の連携事業のご紹介と、「カーボンニュートラル」をテーマにスピーチによる講演会を開催いたします。

①「2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けて今できることは何か」  
宇都宮大学工学部基盤工学科物質環境化学コース 古澤 毅氏

②「省資源・省エネルギーを志向した、C5ケミカル高効率製造プロセスの開発」  
宇都宮大学工学部基盤工学科物質環境化学コース 日本ゼオン株式会社 三木 英了氏

③「ゼロカーボンを通じた魅力ある地域づくりー日光市の取り組みー」  
日光市企画部 小林 岳英氏

④「ゼロカーボンを通じた魅力ある地域づくりー宇都宮大学の取り組みー」  
宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科 横尾 昇剛氏

講演会後日  
オンデマンド  
配信予定

第2部 ポスター・セッション(対面)  
宇都宮大学の研究成果の発表を対面式ポスターセッションで行います。

参加のお申し込み  
こちらのお申し込みフォームよりオンラインでお申し込みください。締切 9月28日(水)  
<https://award-con.com/utsunomiyauniv-collabo3/>

問い合わせ 宇都宮大学コラボレーション・フェア事務局  
TEL 028-689-6323 E-mail [uscollabo-fair@cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:uscollabo-fair@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 主催 宇都宮大学 後援 栃木県・宇都宮大学 産学交流振興会

ポスター

第3回  
**宇都宮大学  
コラボレーション  
フェア**

日時 Date and Time  
令和4年9月29日(木) 13:00~17:00

講演会  
ハイブリッド開催  
対面&オンライン

場所:宇都宮大学 峰キャンパス(栃木県宇都宮市峰350)

The 3rd Collaboration Fair

主催: 宇都宮大学 後援: 栃木県/宇都宮大学 産学交流振興会

プログラム冊子

第3回コラボレーション・フェアプログラム表

第1部	峰が丘講堂(第2体育館にて同時中継)		
	開会宣言	松井 正実	宇都宮大学 社会共創促進センター長
	学長挨拶	池田 幸	宇都宮大学 学長
	後援ご挨拶	辻 真夫	栃木県産業労働観光部 部長
	連携協定調印式	池田 幸 関本 充博	宇都宮大学 学長 栃木県産業技術センター 所長
	講演会&パネルディスカッション		
	2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けて今できることは何か	古澤 毅 氏	宇都宮大学 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース 教授
	省資源・省エネルギーを志向した、C5ケミカル高効率製造プロセスの開発	三木 英了 氏	宇都宮大学 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース 教授 日本ゼオン株式会社
	ゼロカーボンを通じた魅力ある地域づくりー日光市の取り組みー	小林 岳英 氏	日光市企画 総務部 部長
	ゼロカーボンを通じた魅力ある地域づくりー宇都宮大学の取り組みー	横尾 昇剛 氏	宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 教授
第2部	第1体育館		
	ポスターセッション		



本学と栃木県産業技術センターの協定締結式



古澤 毅 氏



## 講演会 & パネルディスカッション



三木 英了 氏



小林 岳英 氏





ポスター・セッションの様子

第3回コラボレーション・フェア学内外の参加者数

	参加者数 (うちオンライン参加者数)	第2回からの増減
学内	184(17)	-1
学外	183(31)	+53
合計	367(48)	+52

( )内はうちオンライン参加者数



うちわ

第3回コラボレーション・フェア発表件数

発表者	発表者詳細	発表件数
宇都宮大学	事業紹介	13
	研究シーズ	23
	地域連携・貢献活動支援事業	11
	イノベーション支援センター非常勤研究員	2
	大学院生研究奨励金	49
	大学発ベンチャー	3
栃木県内大学		3
栃木県	栃木県農政部	4
	栃木県産業技術センター	11
	栃木県産業振興センター	1
企業	県内企業	8
産学連携事例		3
産学支援機関		3
合計		134

# Topic 2

# オンラインサロン



大谷 幸利 教授

## 第7回オンラインサロン

日時:1月20日(金)15:30~16:30 Zoom Meeting形式

講師:宇都宮大学 オプティクス教育研究センター長  
大谷 幸利 教授

演題:新しいオプティクス教育研究センターの研究活動



チラシ

オプティクス教育研究センターは、昨年度から「スマート製造光学領域」、「スマートICT社会光学領域」、「リアルワールド情報光学領域」、「自然環境光学領域」からなる4研究領域11分野プロジェクトへと改組し、教育研究の集約と体系化によりニーズオリエンテッドの社会実装・社会貢献拠点化することを目指しています。

本講演では、この新しいオプティクス教育研究センターの研究活動について紹介されました。

## 第8回オンラインサロン

日時:3月10日(金)15:30~16:30 Zoom Meeting形式

講師:宇都宮大学 農学部 農業環境工学科  
菱沼 竜男 准教授

演題:ライフサイクルアセスメントの概要と企業の利用事例



菱沼 竜男 准教授

脱炭素化やカーボンニュートラルの社会の実現に向けた具体的な取り組みが求められる中で、企業での経営や事業で排出される温室効果ガスの算定が進められています。

本講演では、温室効果ガス算定方法のベースとなるライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方や企業のLCA取り組み事例が紹介されました。



チラシ

## 地域創生推進機構総合企画室

総合企画室が機構全体のトータルマネジメントを行い、地域が抱える課題解決、イノベーションの創出、地域人材の育成等に一体的に取り組むことにより、地域と大学のハブ機能と共創機能を強化し、知の拠点形成を推進します。

### 企業連携：民間企業との共創

#### ◆コラボレーションイベントの開催

令和3年7月にとちぎニュービジネス協議会と連携協定締結後、定期的に打ち合わせを重ね、令和5年3月20日に「データサイエンスから地域の未来を考えるとちぎNBC×宇都宮大学」と題し、「とちぎニュービジネス協議会3月全体例会」を同協議会と本学の共催で開催しました。当日は令和6年度に新設する「データサイエンス経営学部」の概要説明したのち、本学教員と同協議会会長等による地域企業の未来についてパネルディスカッションを行いました。

#### ◆コラボレーショングッズの制作

有志の学生と企業が意見交換やプロモーションを協力して行い、地域共創を目的に本学と宇都宮市を中心に展開するセレクトショップ「ARKnets(アークネッツ)」がコラボレーショングッズ第1弾としてTシャツを制作しました。(令和5年4月新入生ガイダンス以降、販売を開始。)

### 自治体連携：「那須地域開拓塾×宇大NFプログラム」開講

地域版ニューフロンティア・プログラムとして、那須塩原市と連携し、プログラムの開発・運営を行い、那須地域の次世代を担う若手を中心に、それぞれが抱える多様な課題の解決に向けた学びの場「那須地域開拓塾×宇大NFプログラム」を令和4年7月から開講し、合計5回開催しました。

### リカレント教育：令和4年度開講宇大未来塾「ニューフロンティア・プログラム」準備・開講

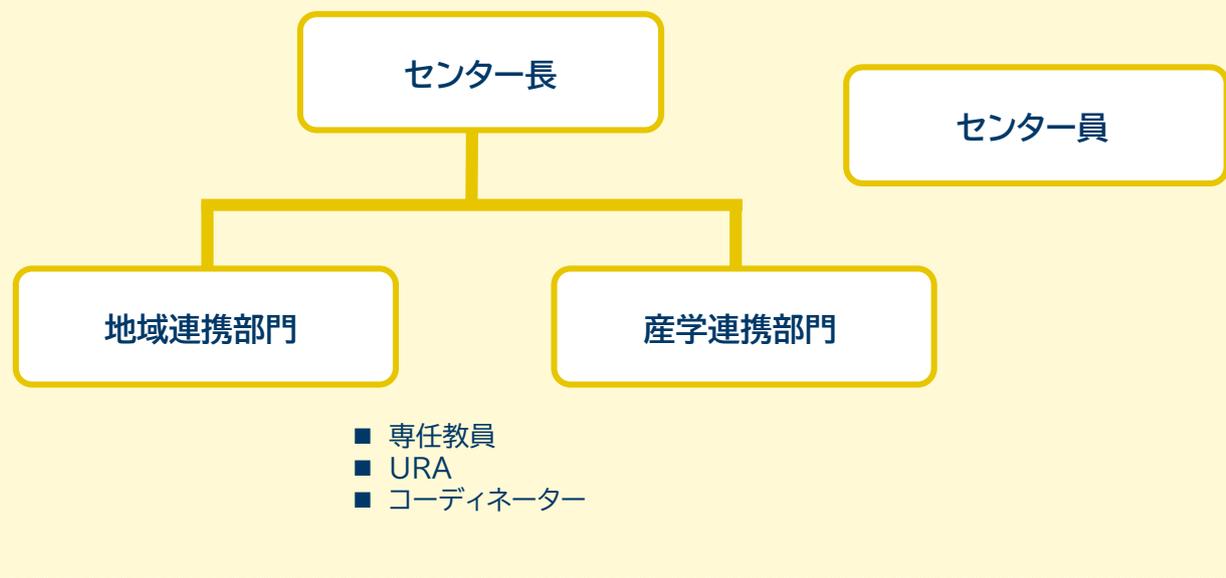
宇大アカデミーでは、社会人向けプログラムとして宇大未来塾を開講し2つのプログラムを開講していますが、新たにディスカッション形式をメインとする「ニューフロンティア・プログラム」の開講の準備を進め、令和4年10月から開講し、合計8回開催しました。

# II 社会共創促進センター

宇都宮大学では「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」をモットーに地域と連携した教育、研究に取り組んできました。今後、地域や産業界と双方向の関係性を築き、「共創」していくことが益々重要になることから、平成31年4月に地域のシンクタンク機能及び自治体や産業界等の多様な外部との連携、共創の1本化した窓口としての役割を担う「社会共創促進センター」を新たに設置しました。

## 窓口の一本化

学内にあった窓口を一本化するため、令和3年4月の社会共創促進センターの開所と同時に、教員、URA、コーディネーター、所管事務が同じ部屋を利用できる環境が整備されました。必要に応じて共同研究契約等を担う学術研究部とも連携を図り、社会共創促進に向けた体制を構築し、業務を行っています。



## 第3回宇都宮大学コラボレーション・フェアの開催

産学官金連携の総合窓口を担う部局として、コラボレーション・フェアの企画・運営を社会共創促進センターが担当しました。

## Ⅱ-1 相談窓口業務

産学官金連携を目指し、学内の優れた研究計画・研究成果をイノベーション創生に繋げる役割を担います。具体的には、企業・大学間共同研究の斡旋、大学シーズの広報活動、企業ニーズの教員への取次、産学連携のための研究会、研修会、展示会への参加・開催支援、本学教員の起業支援などを通じて、地域の企業等と大学を結ぶハブとして機能します。

### 相談窓口件数

学内にあった窓口を一本化するため、平成30年4月の社会共創促進センターの開所と同時に、教員、URA、コーディネーター、所管事務が同じ部屋を利用できる環境が整備されました。必要に応じて共同研究契約等を担う学術研究部とも連携を図り、社会共創促進に向けた体制を構築し、業務を行っています。

### 相談窓口件数

のべ **188** 件

うち共同研究、学術指導等の締結に至った案件 23件  
(総額3,505万円)

地域別 県内:59件、 県外:68件

機関別 企業:95件(75%)、 自治体:16件(13%)

内容別 技術相談:48件(38%)、 共同研究等:30件(24%)  
講師/委員紹介:11件(9%)、 地域連携:8件(6%)

分野別 食品・農林水産物:24件(19%)、 植物、バイオ:14件(11%)  
まちづくり:14件(11%)、 材料・ナノテク:12件(11%)

※社会共創促進センターの相談窓口は、令和4年度で2年目を迎えました。学外への周知も徐々に進み、件数は、152%UP(前年度124件)、契約に至った件数、金額も各々144%UP(前年度16件)、182%UP(前年度1,931万円)となりました。

## 共同研究推進事業

### 共同研究

196件

前年度190件  
前年度比3% UP



201百万円

前年度198百万円  
前年度比1.5%UP



### 学術指導

24件

前年度8件  
前年度比300% UP



14百万円

前年度2.8百万円  
前年度比514%UP



※学術指導は、本学としては令和3年度より始まった制度です。主に、①レクチャー、②コンサルティング、③共同研究前の試行などがあり、これまで共同研究や受託研究でカバーしきれなかった要望に対応するものです。開始年度に比べ、学内外ともに周知が進み、件数、金額とも大きな伸びを示しています。

### 受託研究

67件

前年度68件  
前年度比2% DOWN



288百万円

前年度364百万円  
前年度比21%DOWN



## 令和4年度の部局別共同研究契約締結数一覧

	部局名	件数	金額(百万円)
1	地域デザイン科学部	34 (1)	35.2
2	共同教育学部	1 (0)	0.6
3	工学部・工学研究科	91 (7)	104.3
4	農学部	46 (8)	23.8
5	雑草と里山の科学教育研究センター	2 (0)	0.4
6	バイオサイエンス教育研究センター	14 (6)	22.4
7	オプティクス教育研究センター	3 (0)	11.5
8	ロボティクス・工農技術研究所	4 (1)	2.5
9	機器分析センター	1 (0)	0.5
	総計	196 (23)	201.1

\*括弧内はその内の無償契約の件数

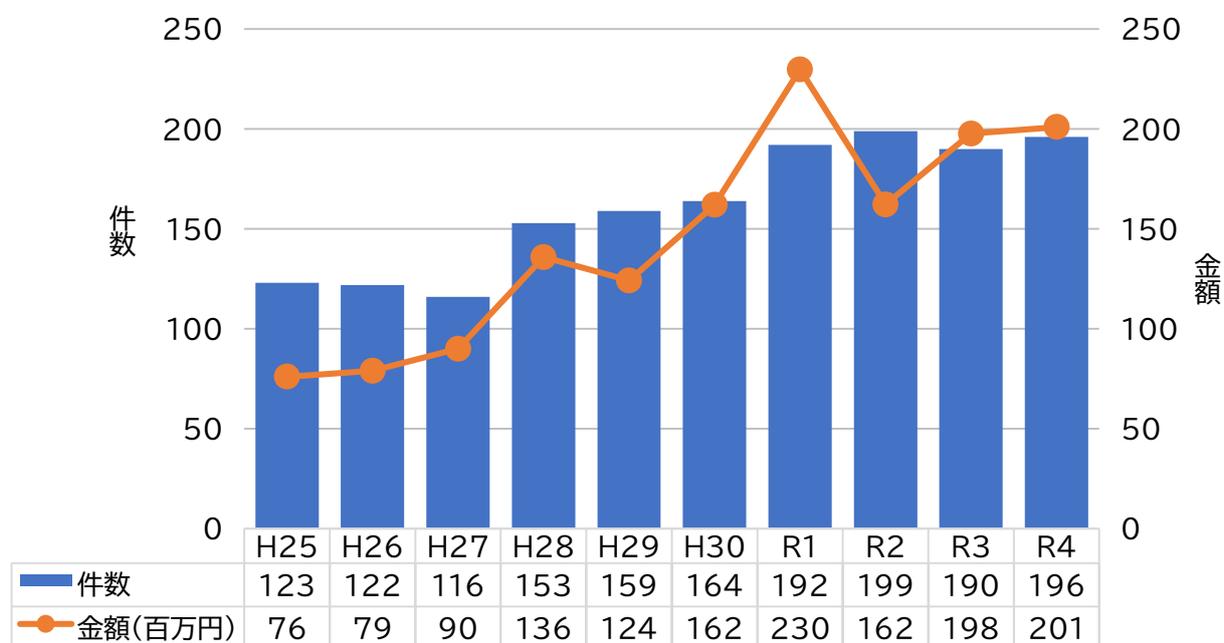
共同研究の相手先は、51件(全件数比 26%)が県内企業・団体でした。このように、地域との連携事業が比較的多いことが本学の特徴であり、かつ本学(本センター)のミッションの一つでもあります。

## 令和4年度の部局別受託研究締結一覧

	部局名	件数	金額(百万円)
1	地域デザイン科学部	10	24.3
2	工学部・工学研究科	17	132.2
3	農学部	28	43.8
4	雑草と里山の科学教育研究センター	6	16.6
5	バイオサイエンス教育研究センター	4	27.8
6	オプティクス教育研究センター	1	42.3
7	機器分析センター	1	1.2
	総計	67	288.2

## 共同研究の実績

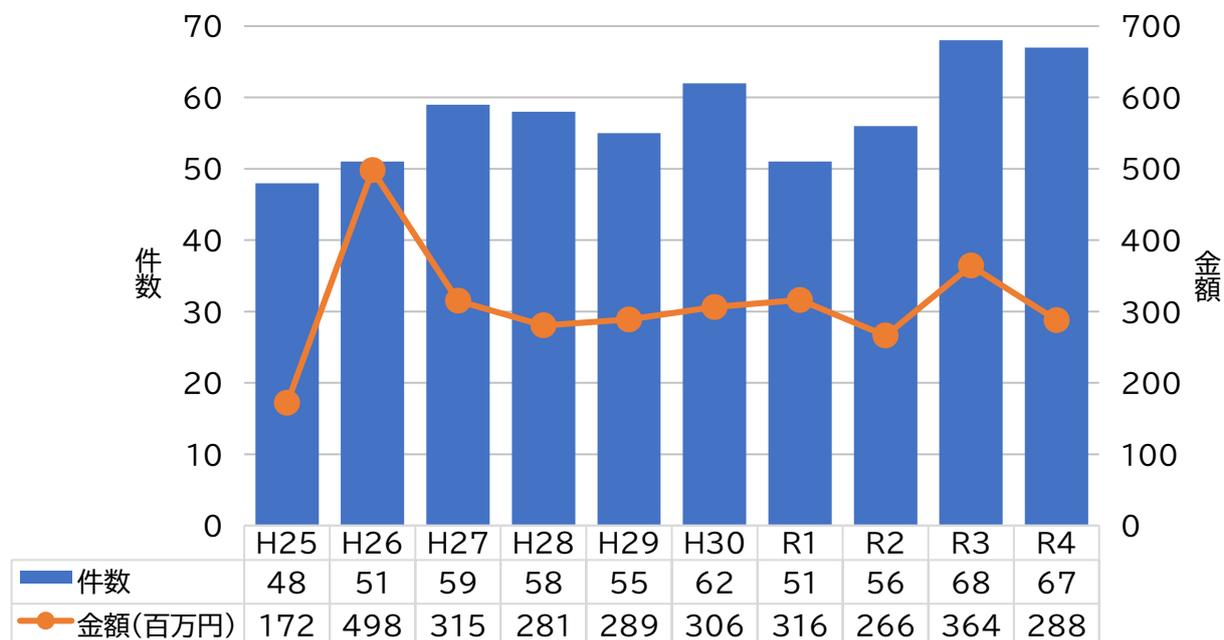
令和4年度共同研究契約(無償契約を含む)の全学における締結実績は、件数では196件(対前年3%増)となり、金額では201百万円(対前年2%増)となりました。コロナ禍により一時落ち込みましたが回復基調にある模様です。また、県内機関との連携(企業や自治体・団体との案件)は、総件数が51件で金額では32.2百万円、全体に占める割合は、件数比で26%、金額比で16%となり、件数は減ったものの金額ベースでは増加しました。



共同研究締結件数と契約総額の年次推移

## 受託研究の実績

令和4年度の全学の受託研究契約実績(継続案件を含む)は、件数ベースで67件(対前年2%減)、金額ベースでは288百万円(対前年21%減)でした。この減少の背景には、1000万円以上の案件減少(今年度7件、前年度10件、特に新規案件が2件のみ)があります。尚、受託研究は、主に国の各府省庁および研究機関そして自治体や企業の財団からの委託テーマ、また企業からの特定事項の依頼案件が該当します。



受託研究締結件数と契約総額の年次推移

## Ⅱ-2 展示会への出展、セミナー等参加

本学の研究及び本センターの活動の広報のために、複数の展示会に出展しました。

### ◆とちぎ産業振興協議会(航空宇宙、自動車、環境、医療機器、光の5分野)

定期総会(令和4年5月16日)を始め、年度を通して開催される各分野の個別研究会に参加しました。

### ◆栃木県産業技術センターオープンラボ2022

@栃木県産業技術センター(令和4年9月14日)

本学のセンター関係のブース5件を出展しました。(社会共創促進センター、イノベーション支援センター、バイオサイエンス教育研究センター、オプティクス教育研究センター、機器分析センター)

### ◆めぶきFG「ものづくり企業フォーラム2022」技術商談会

@つくば国際展示場(令和4年9月15日)

常陽銀行、足利銀行が主催する商談会に、社会共創促進センターのブースを出展しました。

### ◆アグリビジネス創出フェア2022

@東京ビッグサイト(令和4年10月26日~28日)

本フェアは、全国の産学の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、研究機関間や研究機関と事業者との連携を促す「技術交流展示会」で、主催は農林水産省です。信州TLOとともに農学部・二瓶賢一先生、工学部・石川智治先生の特許について、出展しました。

### ◆AREC・Fiiプラザ信州TLOによる技術紹介セミナー

@オンライン開催(令和4年12月6日)

株式会社信州TLOが主催するセミナーに本学の工学部・佐藤正秀先生の「グラフェン分散液の製造方法」を出展いただきました。

### ◆ものづくり企業展示・商談会2022▶

@マロニエプラザ大展示場(令和4年12月7日)

足利銀行が主催する展示会では、社会共創促進センターとイノベーション支援センターの改組と本学への相談窓口について、県内を中心とした企業に紹介しました。

### ◆nano tech 2023 ▶

@東京ビッグサイト(令和5年2月1日~3日)

JST技術移転人材研修の研修生の集大成として、信州TLOによる研修生ブースにおいて、東京薬科大学、東京都立大学、岐阜大学、宮崎大学とともに、本学の北本琢磨技術職員の「光ストレス作用のあるユズ調合香料」の特許を出展しました。



## II-3 URAの活動

本学の研究力の一層の向上のためには、外部研究費の獲得が不可欠です。URAはそれらの研究活動支援を目的として、平成26年に旧地域共生研究開発センター内に設置されました。令和3年度より社会共創促進センターで産学連携の活動を行っています。令和5年3月31日時点で、専任3名のURAが在籍しています。

以下は、宇都宮大学リサーチ・アドミニストレーター実施要領に示されている『URAの5つのミッション』です。企画提案からプレ/ポストアワードに至るまで、特に地方大学のURAには幅広いスキルが要求されています。

### 戦略

#### 研究企画戦略の立案支援

- ・計策情報等の調査分析
- ・研究力の調査分析
- ・研究戦略策定

### 専門

#### 研究成果及び知財の管理・活用支援

- ・知財関連業務

### 専門

#### その他

- ・研究機関としての発信力強化・広報
- ・安全保障輸出管理、名古屋議定書
- ・利益相反、教育プロジェクト支援
- ・イベント開催関連

### プレアワード

#### 外部研究資金の獲得支援

- ・外部資金情報収集(競争的資金、科研費)
- ・研究プロジェクト企画立案支援、内部折衝活動、プロジェクトのための対外折衝・調整
- ・申請資料作成支援
- ・産学連携プロジェクト支援

### ポストアワード

#### 研究活動の活性化及び研究開発 マネジメント強化を図るための取組

- ・プロジェクト進捗管理、予算管理、評価対応、報告書作成

(宇都宮大学リサーチ・アドミニストレーター実施要領より)

## URAの5つのミッション

### 府省公募情報の収集・整理

- ・文科省、JST、JSPS、経産省、農水省などの各公募説明会に参加し、教職員に対しタイムリーな情報展開を行いました。令和3年度はコロナ禍のため、オンライン説明会に参加しました。
- ・府省公募の定期的な年間スケジュールについても整理して、Web上に情報展開を行いました。また、令和4年度概算要求を整理し、本学に係る制度・事業を早期に活動計画に反映しました。
- ・「JST公募事業説明会」を学内で開催し、本学で特に応募の多いJSTの事業について、担当者による制度の説明を実施しました(令和4年2月17日)。

## 競争的資金獲得の支援

- ・国プロ/府省、自治体、民間財団など、幅広い競争的研究資金の獲得の支援をしています。公募情報収集、評価ポイントの整理、申請書並びにヒアリング資料の作成支援、構成提案など、多岐に渡り支援を行いました。
- ・支援対象として、平成28年度から日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)も追加され、今年度は「科研費プロジェクト2022」として支援を行いました。また、春期の研究活動スタート支援や学振特別研究員に応募する新任の研究者や大学院生を対象に、「科研費プロジェクト春の陣2022」を行いました。

### ◆科研費プロジェクト春の陣2022 令和4年3月～5月

#### 研究計画調書作成支援

研究計画調書のチェックや添削を行いました。  
6件(特別研究員DC/PD、研究活動スタート支援)

#### 科研費動画

初めて科研費に応募される方、応募の経験が少ない方向けの科研費に関するURAオリジナル動画を学内限定で5本公開しました。

#### 配布物

- ・科研費申請ガイドライン 第3版
- ・自己チェックリスト(特別研究員用、スタート支援用)



### ◆科研費プロジェクト2022 令和4年6月～9月

令和4年度の科研費から、公募期間が前倒しになったことを受け、支援期間の変更についてのお知らせを行いました。

#### 科研費説明会 令和4年7月14日(木)14:30～16:30

講師:文部科学省 学術研究推進課 課長補佐 林 史晃 氏

科研費説明会は、ウェビナー形式で実施し、後日オンデマンド配信を行いました。宇都宮大学のほか、栃木県内大学にもお声がけし、参加者計111名、学内向けオンデマンド配信の視聴回数23回でした。

#### 外部申請書支援ベンダーの利用

全学に対し、外部の申請書支援ベンダーを活用できるよう展開しました。

#### 研究計画調書作成支援 令和4年7月～9月

受付件数17件

#### 研究計画調書 閲覧室

採択された過去の研究計画調書を学内で募集し、閲覧を実施しました。閲覧可能な調書は66編に増え、7名が閲覧を行いました。今回は、感染症対策のため予約制としました。

#### 研究計画調書 集中作成WEEK 令和4年8月29日～9月2日

峰キャンパスと陽東キャンパスのメイン会場では、URAによるサポートデスク、調書の閲覧を実施しました。科研費申請者が自らサテライト会場を設置して作成に集中できるイベントを学内全体で行いました。

## 配布物

- ・科研費申請ガイドライン応用編文系・理系第3版
- ・人権及び法令順守文例集ver.2
- ・自己チェックリスト(若手・基盤フォーマット版、挑戦的研究萌芽版、挑戦的研究開拓版)
- ・変更点まとめ2022

## サポートデスク

URAが科研費に関する質問や相談に対応する窓口を実施しました。

### ◆大型競争的資金

令和4年度にURA室が申請を支援した主な大型競争的資金は以下のとおりです。

#### ・JST/共創の場支援プログラム(COI-NEXT地域共創分野):

「フードポリシーカOUNシルにより食農システムを構築し都鄙共存圏を実現する地域共創拠点」というテーマで、農学部と地域デザイン科学部が連携して申請を行い、これを支援しました。具体的には、学内候補の調整に始まり、ステークホルダーの調整～申請書の分担執筆等幅広い支援を行いました。

#### ・文科省/地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業

「光工学におけるエコシステムのための光工学社会実装施設」というテーマで、オプティクス教育研究センターが主となり申請を行い、これを支援しました。具体的には、学内候補の調整、データ収集～申請書の執筆および作成管理等幅広い支援を行いました。

#### ・JST/創発的研究支援事業:

本事業は若手研究者に対する手厚い支援事業です。以下2つの学内支援策を実施しました。

①相談会: 外部審査員をされている先生による審査ポイントのレクチャーおよび応募者からの質問に答えて頂く会を開催しました(6月)

②メンター制度: 名誉教授を中心としたメンターにより、テーマ選定や長期の研究計画の立て方などを指導していただく制度を実施しました。

この施策の利用者ではありませんが、本学として1名が採択されました。

#### ・農水省/オープンイノベーション研究・実用化推進事業:

主に若手研究者に対して、申請書の作成支援、面接支援などを行いました。その結果、1名がチャレンジタイプに採択されました。

### ◆UU論文セミナー

令和3年度より、エルゼビア社の講師を招いて論文書き方セミナーを企画し、令和4年度も計4回シリーズで開催しました。教職員、学生が聴講しました。

開催日時	タイトル
10月28日(金)	論文の効率的な探し方
11月25日(金)	英語論文の作成
12月23日(金)	適切な投稿ジャーナルの選択と学術研究倫理
1月27日(金)	研究戦略の考え方

### ◆研究IR

大型競争的資金申請における他大学とのベンチマークや、学内の若手論文賞表彰の場面で、エルゼビア社のScopus/Scivalツールを用いた研究力分析結果を利用しました。

## 企業との共同研究等の契約締結の支援

企業とのマッチングを支援し、共同研究等の契約締結までを支援しました。URAの担当分としては、技術相談計55件を支援し、そのうち計16件の共同研究契約等を締結しました。

## 研究シーズ集

平成27年9月より、全学教員を対象に「研究シーズ集」の作成を行い、令和4年度は2回の募集、更新の依頼を行いました。未掲載の方に声かけを行い、今年度は掲載数が大幅に増えました。



シーズ集版	掲載件数
2021年9月版	170シーズ
2022年4月版	218シーズ
2022年9月版	235シーズ

社会共創促進センターホームページ内 研究シーズ集トップページ  
<https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/tomotsuku/seeds>

## その他

・Facebookに「宇都宮大学URA」のページを作成し、情報発信を行っています。

<https://www.facebook.com/UtsunomiyaUniversityURA/>

・多能エコソ URA 交流会

9月5日、12月21日、3月10日に茨城大学、群馬大学のURAとのオンライン交流会を実施しました。

# III イノベーション支援センター

本センターの役割は、本学の研究を地域イノベーションの創生に繋げる活動ならび知的財産管理に基づいて研究成果の社会実装を促す活動を通して、本学の産業界等との「共創」を支援することです。センターは、次の2つの部門からなります。

## イノベーション部門

学内の優れた研究計画・研究成果をイノベーション創生に繋げる役割を担います。具体的には、先端研究、異分野融合研究、インキュベーション推進のための研究開発スペースの提供、若手研究者海外派遣、外国人研究者招聘等を通じて研究の芽を育て、得られた成果を地域イノベーションに繋げる活動を行います。

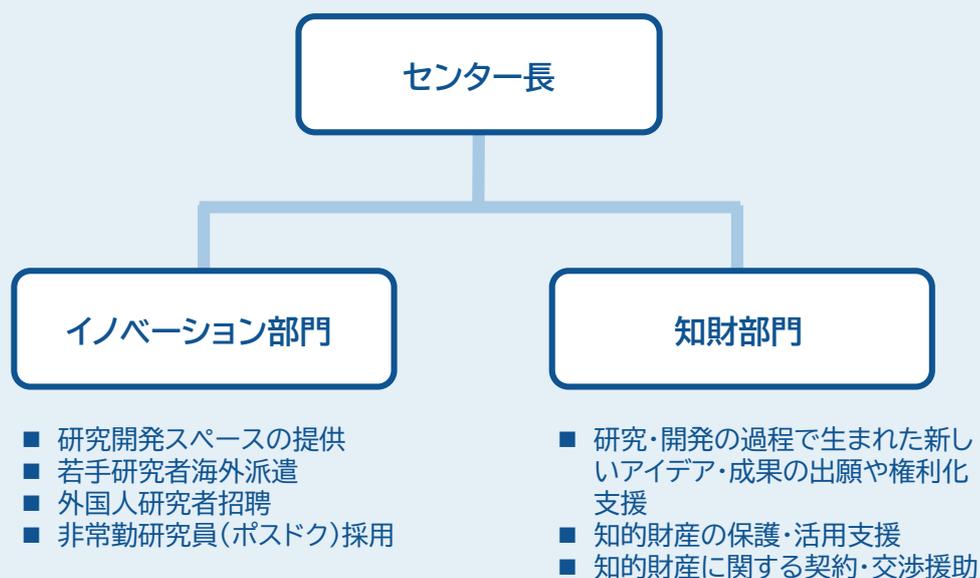
## 知財部門

学内の研究・開発の過程で生まれた新しいアイデア・成果の出願や権利化支援、知的財産の保護・活用支援、知的財産に関する契約・交渉援助を行います。さらに、知的財産の保護・活用等による研究活動の活性化と外部機関との連携を支援します。

## イノベーション支援センター組織図



宇都宮大学 地域創生推進機構  
イノベーション支援センター  
Center for Innovation Support



## Ⅲ-1 イノベーション部門

イノベーション(CDI)部門は、「We Can Do Innovation!」を合言葉に、大学のシーズという持ち味を発揮した産学連携プロジェクトを実施しています。アントレプレナーシップを重要視しつつもベンチャービジネスに特化しないという特色を生かして、産業界のニーズに応えています。

### 研究プロジェクトの推進

研究スペースを有償提供する「プロジェクト スペース貸与」を実施し、研究スペースを研究者に提供しました。令和4年度はCDI本棟・CDI北棟合わせて、24スペースを貸与し、研究支援を行いました。

### 海外派遣事業

海外での研究動向調査として、若手研究者を海外派遣しています。令和4年度は、1名をアメリカ合衆国に派遣しました。

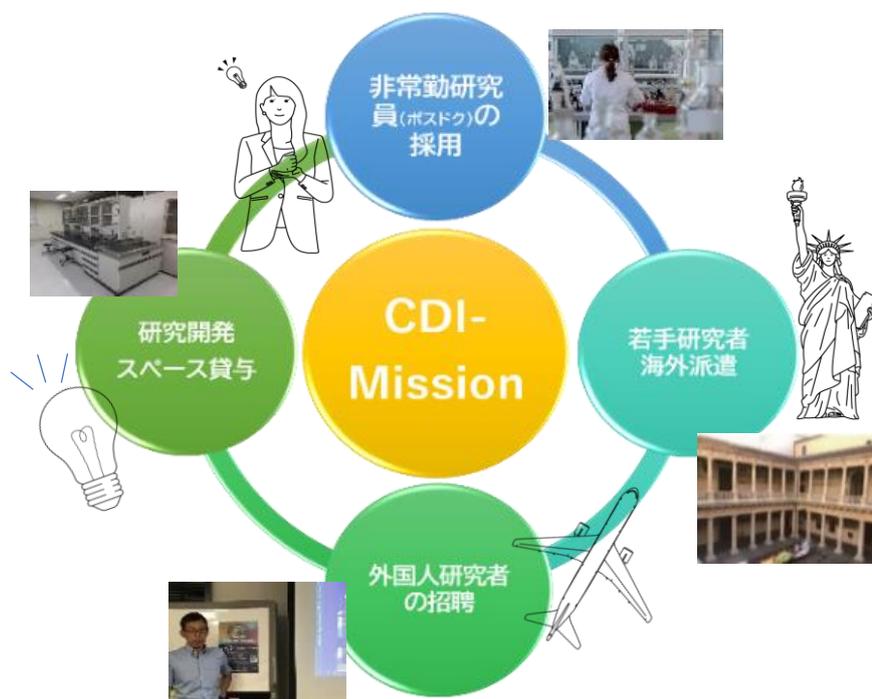
### 非常勤研究員(ポストドクター)の採用

2名を新規採用し、前年度からの継続者1名と合わせて3名の研究員を採用しました。

《新規》 友井 拓実 研究員  
JEEVIKA ALAGAN 研究員

《継続》 謝 恵君 研究員

We Can Do Innovation!  
CDI-Mission 4つの軸



## 「CDI-Mission報告会」を開催しました

イノベーションを目指す研究者たちの支援を使命(mission)とするイノベーション部門ですが、令和4年度は部門事業のうち「海外派遣若手研究者」と「非常勤研究員」について、3月3日に「CDI-Mission報告会」として合同成果報告会を開催しました。



CDI-Mission報告会ポスター

イノベーション支援センター  
CDI-Mission報告会 第1部



「CDI-Mission報告会」第1部は、宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターの謝肖男准教授がアメリカ、カリフォルニア大学リバーサイド校への派遣報告を行いました。

発表タイトル  
「新しい種子発芽  
イノベーションをたずねて九千里」

謝 肖男  
宇都宮大学バイオサイエンス  
教育研究センター 准教授



第2部では、非常勤研究員(ポストドクター)3名(謝 恵君研究員、友井 拓実研究員、Jeevika Alagan研究員)が、1年間の研究成果を発表しました。

発表者	演題
謝 恵君 研究員	変動磁場を利用した超精密磁気研磨法に関する研究 -複合磁場を利用した場合の加工特性の検討-
友井 拓実 研究員	赤外光による加温を利用した植物の細胞操作とその農学的応用の試み
Jeevika Alagan 研究員	Construction of perovskite based electrochemical sensor for the detection of amino acids



謝 恵君 研究員



友井 拓実 研究員



Jeevika Alagan 研究員



なお、イノベーション部門の活動をまとめた令和4年度CDI活動成果報告書(PDF版)は、以下より入手可能です。

<https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/innov/kouhou>

## 令和4年度CDIプロジェクト

### 令和4年度CDIプロジェクト スペース貸与一覧(令和5年3月31日現在)

番号	プロジェクト研究題目	実験室	代表者名	部局等・職
<b>プロジェクト(CDI本棟スペース貸与) R4.4～R5.3(1年更新)</b>				
1	光学薄膜作製技術の開発と関連した技術の研究および関連するデバイスの解析法の開発	プロジェクト 実験室Ⅰ (2/3)	依田 秀彦	工学部・ 准教授
2	科研費および共同研究における光学素子の加工と評価	プロジェクト 実験室Ⅰ (1/3)	大谷 幸利	工学部・ 教授
3	宇都宮大学発ベンチャーとして株式会社CrowLabの事業を行う	プロジェクト 実験室Ⅲ(1)	株式会社Crow Lab 塚原 直樹	バイオセンター 特任助教
4	磁気分離を利用した新規水処理法の研究開発	プロジェクト 実験室Ⅲ(2)	酒井 保蔵	工学部・ 准教授
5	新規材料の合成とそれらを利用した機能性界面の作製および評価	プロジェクト 実験室Ⅳ(1)	飯村 兼一	工学部・ 教授
6	凍結水溶液と接する鉄鋼材料の腐食過程の定量的可視化に関する研究	プロジェクト 実験室Ⅳ(2)	稲川 有徳	工学部 助教
7	①AVコンテンツの再生を指向した視聴覚問の等価性に関する研究 ②自動車走行における安心感に関する研究	プロジェクト 実験室Ⅴ(2)	長谷川 光司	工学部・ 教授
8	メンブレンリアクターを利用したリーフエステル類等の連続製造プロセスの開発	プロジェクト 実験室Ⅵ	伊藤 直次	工学部・ 特任教授
9	①耐震性の高い新型橋脚の開発 ②高い免震性能を有する橋梁の開発	大型実験室 1/3 及び屋外	藤倉 修一	地デ学部・ 准教授
<b>プロジェクト(CDI北棟スペース貸与) R4.4～R5.3(1年更新)</b>				
1	除菌空気清浄機の脱臭性能を見える化するための精密ガスセンサーシステムの開発研究	プロジェクト 実験室1-1 (西)	中井 俊一	有限会社マロニ 工技術研究所
2	共同研究講座「無機系分離膜を活用した革新的プロセスの開発」	プロジェクト 実験室1-1 (中)	佐藤 剛史	工学部・ 准教授
3	研究開発の促進	プロジェクト 実験室1-1 (東)	小泉 泰英	株式会社 オリゼ
4	異種材料の通電拡散接合	プロジェクト 実験室1-2	高山 善匡	工学部・ 教授
5	原子間力顕微鏡を用いた表面構造・物性評価	プロジェクト 実験室1-3 (北)	飯村 兼一	工学部・ 教授

番号	プロジェクト研究題目	実験室	代表者名	部局等・職
6	実用化を指向した光波制御デバイスの研究	プロジェクト 実験室1-3 (南)	依田 秀彦	工学部・ 准教授
7	研究開発の促進	プロジェクト 実験室2-1 (西)	小泉 泰英	株式会社 オリゼ
8	多重反射による空中ディスプレイの薄型化と 水中CAVEへの応用～魚に映像を見せる～ の光学実験	プロジェクト 実験室2-1 (中央)	山本 裕紹	工学部・ 教授
9	空中表示技術を用いたデバイスの開発	プロジェクト 実験室2-1 (東)	山本 裕紹	工学部・ 教授
10	高平均出力レーザーおよび半導体基板欠陥 検出装置用高輝度光源の開発	プロジェクト 実験室2-2	東口 武史	工学部・ 教授
11	磁気援用加工法によるプラスチック及びセラ ミック材料の精密研磨技術の開発	プロジェクト 実験室2-3	鄒 艶華	工学部・ 教授
12	共同研究講座「無機系分離膜を活用した革新的 プロセスの開発」	プロジェクト 実験室3-1 (西)	伊藤 直次	工学部・ 特任教授
13	共同研究講座「無機系分離膜を活用した革新的 プロセスの開発」	プロジェクト 実験室3-1 (東)	伊藤 直次	工学部・ 特任教授
14	共同研究講座「無機系分離膜を活用した革新的 プロセスの開発」	プロジェクト 実験室3-2 (西)	伊藤 直次	工学部・ 特任教授
15	マイクロ波プラズマCVD装置を用いた医用 材料(ステント)の品質向上に向けた表面処理 技術に関する研究	プロジェクト 実験室3-2 (東)	吉原 佐知雄	工学部・ 准教授

### 非常勤研究員(ポストドクター)

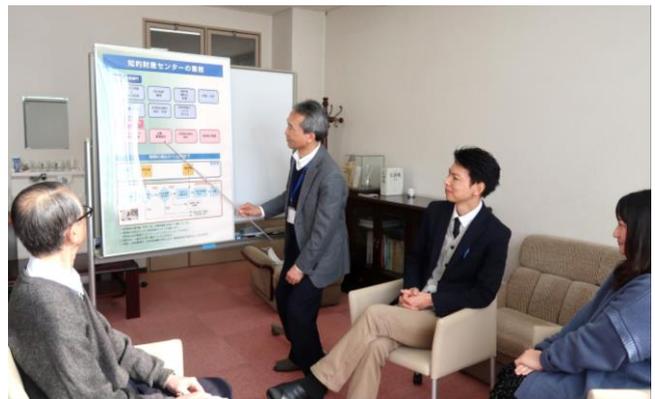
関係 プロジェ クト	研究題目	採用期間		ポストドク 氏名	世話教員
1	微細複雑形状部品の超精密加工技術の実用 化推進研究	R4.4.1- R5.3.31	継続	謝 恵君	鄒 艶華
2	赤外レーザーを用いた植物の新規光細胞操 作法の応用	R4.4.1- R5.3.31	新規	友井 拓実	玉田 洋介
3	Construction of electrochemical sensor based on carbonaceous nanomaterials for detection of biomarkers of nutrients	R4.9.12- R5.3.31	新規	Jeevika Alagan	飯村 兼一

## Ⅲ-2 知財部門

知的財産権は研究成果の社会還元を具現化する端緒とも言えるもので、大学の研究活動においても重要性が増しています。本センターのイノベーション・知財部門では専任の技術専門職員と担当職務者を擁しています。全学の教員等から発明届として提案された職務発明を、知的財産に関わる外部の2名の専門家(弁理士など)を客員教授とした支援体制を築き、特許として出願し権利化するサポートを行っています。

### 出願相談・権利承継・出願・審査請求・権利化対応

知財部門長、客員教授(弁理士など)による発明者へのインタビューをとおして、知的財産権の発掘と特許出願相談などを行いました。本年度(令和4年度)は、特許出願件数が25件、特許登録件数が14件ありました。登録された特許については、今後の活用を図っていく予定です。なお、審査請求対象案件は8件でした。



知財ミーティング

### 出願の評価体制の整備

発明を創出した場合、教員などから発明届を提出して頂きます。その発明に関して、職務発明として大学に承継するか否かは、最終的には知的財産委員会での審議で判断されます。イノベーション・知財部門ではこれに先駆け、発明評価検討会の名称で、事前評価を行っています。このメンバーは、当部門の担当専任職員、客員教授などで構成され、発明届の全件について、発明者にインタビューを行います。発明を精査し、本学への承継を判断するだけでなく、出願のブラッシュアップや活用に向けたアドバイスも併せて行っています。

ここ4年間は年あたり発明届が23件前後、出願数は21件程度で推移し、本年度はそれぞれ23件と25件でした。

### 技術移転・ライセンス活動

企業との共同研究の成果をもとにした共同出願(共願)特許を主体に、譲渡やライセンスによる研究成果の還元を行っています。これらによる収入を知財実施料収入として、過去8年間の推移を資料編に示します。ここには肖像権使用許諾による収入を含めています。

本年度は、肖像権許諾2件、ライセンス10件の総12件で、収入金額の総額は3,619千円でした。



#### ◆令和4年度に登録された国内特許

令和4年度に登録された国内特許一覧(本学単独出願のみ)

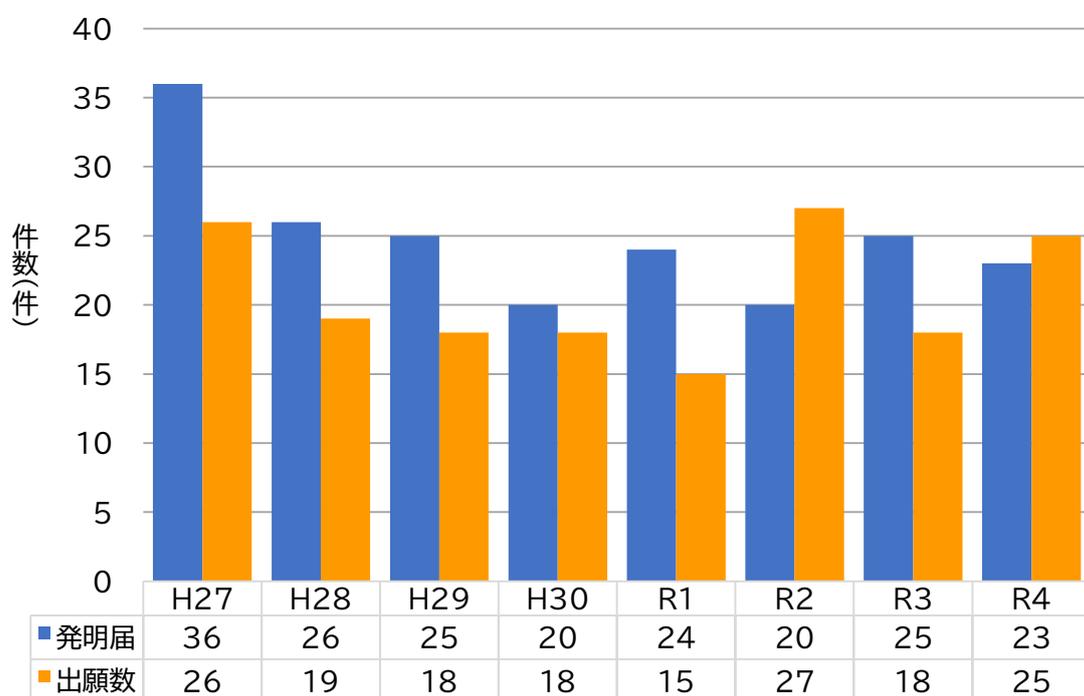
No.	登録番号	発明の名称	発明者
1	特許 7067809	表示装置及び空中像の表示方法	山本 裕紹
2	特許 7128541	表示方法	山本 裕紹
3	特許 7177475	表示装置及び空中像の表示方法	山本 裕紹
4	特許 7226824	表示装置	山本 裕紹
5	特許 7233086	シンボルマッピング方法及びシンボルマップ	藤井 雅弘

#### ◆令和4年度に出願された国内特許

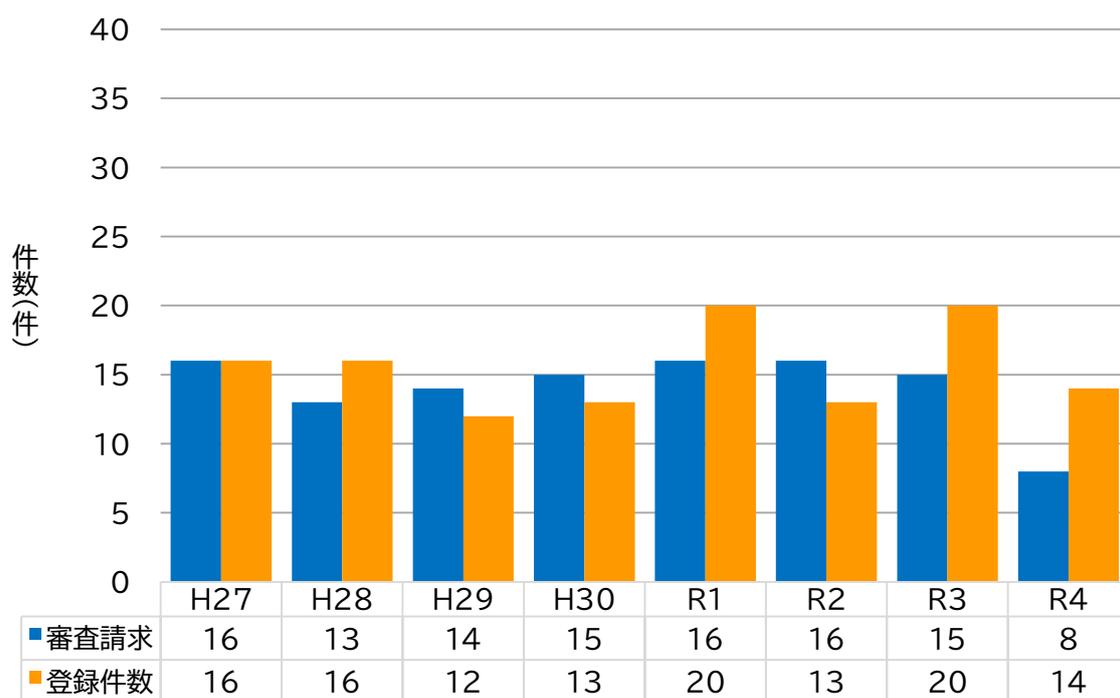
令和4年度に出願された国内特許一覧(本学単独出願のみ)

No.	出願番号	発明の名称	主発明者
1	2022-088499	体外における哺乳動物胚を選別する方法	松本 浩道
2	2022-107981	情報処理装置	池口 厚男
3	2022-177184	表示装置	山本 裕紹
4	2022-178750	手指動作支援機構	中林 正隆
5	2022-185066	食品情報表示システム及び食品情報表示方法	カバリエロ優子
6	2022-191245	触感呈示装置	石川 智治
7	2023-002617	マニピュレータ	中林 正隆
8	2023-031088	体外における哺乳動物胚を選別する方法	松本 浩道
9	2023-032811	触感呈示装置	石川 智治
10	2023-051067	全方向移動体	尾崎 功一

◆特許関連件数の推移

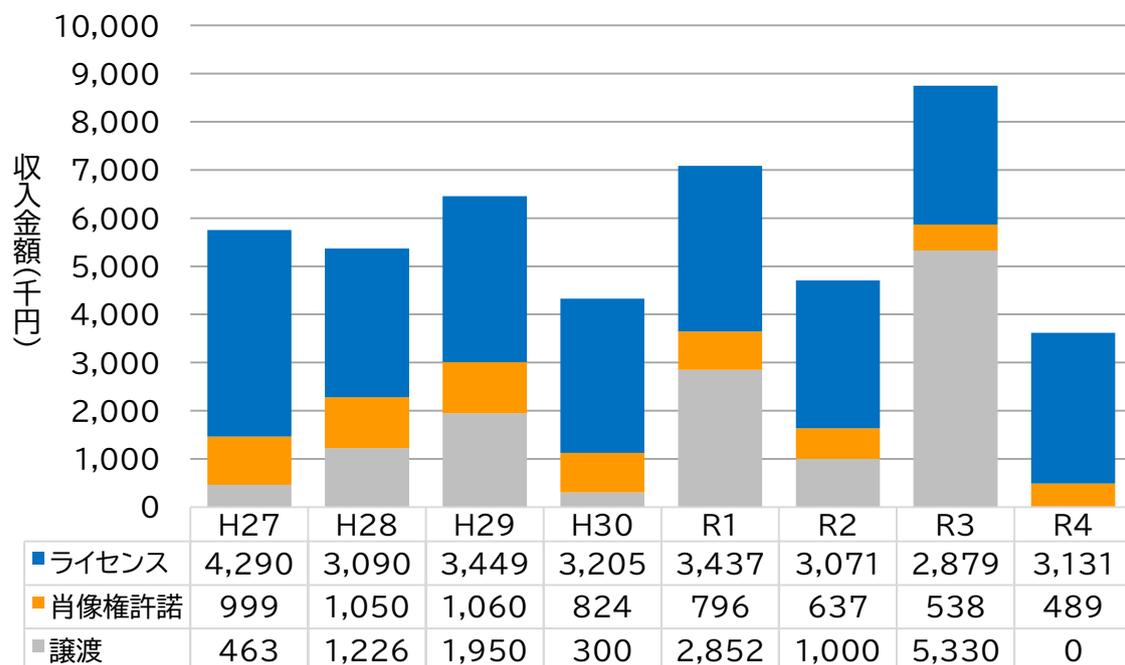


特許出願件数の年次推移



審査請求と登録件数の年次推移

◆技術移転・ライセンス活動



実施料収入推移



## コンプライアンス

本学での研究にかかる経費は主に公費で賄われており、その運用には適正かつ公平な業務遂行および社会的信頼の維持が求められています。このため、コンプライアンス(法令及び本学規程等の遵守)に必要な事項を定め、役員や職員がその重要性を深く認識するとともに、高い倫理観を持って行動することを目的として、平成24年4月1日から国立大学法人宇都宮大学コンプライアンス規程を施行しています。

### ◆利益相反

本学のコンプライアンス規定において、教員の研究費等の取扱いは最もその倫理観が求められるところです。とりわけ、産学官連携活動等を通じて生じる企業や関係団体との共同研究等では、研究資源として物品の授受や知的資源の供与において教員や研究者が受益者もしくは供与者として無意識／意図的に便宜を計らうこともあります。そこで、本学では前記のコンプライアンス規定施行と同時に平成24年度から、大学が産学官連携活動等を通じて生じる利益相反(以下COIという。※)に関するマネジメントを開始しています。

COIマネジメント委員会が本案件の審議・決定機関として委員長を理事として組織されています。本センターは、センター長が当該委員会の委員を兼ね、COIマネジメント室が設置され、知的財産室メンバーがその業務を担当しています。対象となる教職員等に毎年「利益相反自己申告書(前年1月～12月が対象期間)」の提出を促し状況を調査し、その結果を鑑みて選定した該当者へのインタビューを行い委員会に諮ります。ここでの教職員等とは本学の、役員、常勤教職員(任期付き教職員含む)、特任教員等、URA、科学研究費補助金研究支援者、産学連携研究員としています。

本年度(調査対象は令和3年)は対象者530名(昨年556名)から、昨年度に続き全員の申告書を回収し(下表)、企業との関係や個人的利益に関して4名のインタビューを実施しました。そして、COIマネジメント委員会に自己申告書の集計結果ならびにインタビュー結果を報告しました。

委員会での審議の結果、全ての提出者について利益相反上適正な状況にあると判断され、問題となる事例は認められませんでした(令和4年12月)。

※COI: conflict of interestの略

### 本学の利益相反に関わる自己申告調書の調査結果

対象者	対象者数	提出者	提出率(%)
常勤教員	314(323)	314(323)	100(100)
役員及び常勤職員	185(195)	185(195)	100(100)
非常勤職員	31 (38)	31 (38)	100(100)
全体	530(556)	530(556)	100(100)

\* ( )内は昨年の状況

# IV 宇大アカデミー

宇大アカデミーは本学におけるリカレント教育・生涯学習の拠点として地域人材の育成やライフシフトのための教育支援を担っています。身近でかつ今日的なテーマをそろえた「公開講座」、地域各界のトップを講師陣とするプログラムにより次世代の企業人材育成に貢献する「宇大未来塾」、正課を活用した継続的・発展的な学びの場を提供する「UUカレッジ」といったさまざまな学習者層を対象とした多様なプログラムを提供して社会人の学びを支援することにより、本学の地域創生機能の一層の拡充に寄与しています。



## 公開講座

地域の皆様へ様々な学びの場をご提供  
生涯の学びをお手伝い

## UUカレッジ

正課授業を本学学生とともに受講し、  
継続的な学びへの発展を支援

## 宇大未来塾

地域のニューリーダー育成と人材ネットワーク形成を推進



一般市民や企業人等を対象にして、社会人の学びを推進します。

宇都宮大学は「地域に学び、地域に貢献。地域と大学の支え合い」をモットーに、地域と連携した教育、研究に取り組んで来ました。本学では地域との連携関係を一層強化し、地域の「知的拠点」として社会のニーズに応えるために、学内の組織等を整理統合して、2018年4月に地域創生推進機構を設置しました。これからは地域や企業界と双方向の関わりで「共創」していくことが益々重要になることから、2021年4月に地域のシンクタンク機能及び自治体や企業界等の多様な外部との連携・共創の「本化した窓口」としての役割を担う「社会共創推進センター」を新たに設置いたしました。

さらに組織全体を統合する「総合企画室」を組織し、地域が抱える課題の解決、イノベーションの創出、地域人材の育成等を一体的に取り組むことにより、地域と大学の「パイプ機能」を強化して、知的拠点形成を推進してまいりますので、地域の皆様、関係各位におかれましては、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年4月  
地域創生推進機構  
機構長 豊平 俊昭

地域創生推進機構の創設による地域における生涯学習拠点としての機能強化の一環として、「宇大アカデミー」を創設しました。

従来より本学では、生涯学習機会の提供による地域貢献として、多様な場かつユニークで身近なテーマによる学習機会を提供する「公開講座」と地域各界のトップを講師陣とするプログラムにより次世代の企業人材育成に貢献する「宇大未来塾」などの取り組みを進めてまいりました。これらに加えて「UUカレッジ」を平成30年度より新たに開設し、本学の持つ幅広い授業科目の開放による生涯学習機能の一層の拡充に取り組んでいます。

「宇大アカデミー」はこれらの諸部門をその下に置き、地域の市民や企業人の皆様が学び直し、学び続ける場としての仕組み作りや環境の整備、拡充に積極的に取り組む、ユニバーサル・アクセス時代、人生100年の時代の大学としての地域への貢献を果たしてまいります。

令和3年4月  
地域創生推進機構  
宇大アカデミーディレクター 実田 真

### UUカレッジ



正課授業を本学学生と共に受講し、継続的な学びへの発展を支援

### 宇大未来塾



地域のニューリーダー育成と人的ネットワークの形成を推進

### 公開講座



地域の皆さまへ様々な学びの場をご提供  
生涯の学びをお手伝い

国立大学法人宇都宮大学 地域創生推進機構 宇大アカデミー

宇都宮大学  
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

宇大アカデミー ホームページ  
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/udaiacademy/index.html>

## IV-1 公開講座

### 公開講座の概要

宇大アカデミーは、社会人の学びを推進することを目的とする組織です。そのうち、公開講座については、以下の規定に則り、生涯学習研究開発室が担当しています。

#### ◆公開講座の企画・実施を所管する組織

宇都宮大学が行ってきた公開講座の歴史は、昭和時代まで遡ります。しかしながら、全学的かつ組織的に公開講座を企画実施するようになったのは、平成時代に入って以降です。現在の企画運営主体は、以下です。

#### 〔公開講座の企画・実施を所管する組織〕

時期	所管組織	公開講座を実施する根拠
平成30 (2018) 年 4月 ～現在	地域創生推進 機構 ・ 宇大アカデミー ・ 生涯学習 研究開発室	<b>★宇都宮大学宇大アカデミー規程(抜粋)</b> 第2条 宇大アカデミーは、社会人の学びを推進することを目的とする。 第3条 宇大アカデミーは、次の各号に定める業務を行う。 (中略) (3) 生涯学習に関する教育内容・方法の研究に関すること (4) 公開講座及び地域連携講座の企画実施に関すること (後略) 第6条 宇大アカデミーに生涯学習研究開発室を置き、責任教員を配置し、 第3条第1項第3号及び第4号に定める業務を行う。

#### ◆令和4年度の公開講座の企画・立案・実施状況

令和2年度については、公開講座を全面的に中止し、令和3年度についても、その方針が継続されていましたが、市民による公開講座復活の要望の多さに鑑み、遠隔オンライン型の公開講座(2時間×3回)を臨時で企画し実施いたしました。

令和4年度は、コロナ禍が続いていることを意識しつつも、令和元年度に近づく形で正規の公開講座を復活させました。ただし、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」であることに鑑み、遠隔オンライン型の講座を増やして対策を取るとともに、対面型の講座を実施する際にも、集客については積極的に行わない方針としました。講座の具体的状況は、次ページの表として示してあります。

講座数については、合計16講座22コース(無料講座:5講座11コース、有料講座:11講座11コース)を企画しましたが、有料講座1講座を中止したため、開講講座数は計15講座21コースとなります。講座の実施結果として、受講者数は延べ合計で193人(無料講座は延べ101人、有料講座は延べ92人)であり、受講料収入は合計506,000円となりました。

なお、広報活動として、ホームページ活用、パンフレット配布、ポスター掲示の三本柱を主として行いました。印刷物の内訳は、ポスター(A2サイズ:300枚)とパンフレット(長形3号封筒版サイズ:10000冊)であり、パンフレットのデザインは次ページです。

令和4(2022)年度 宇都宮大学 公開講座

特別無料講座

1. 始めたい貴方のための「オンライン話しあい」入門  
—超初心者も楽しめる遠隔型コミュニケーション—
2. 「いま、ここ」ならでのコミュニケーションを愉しもう!  
—出会い・ふれあい・学びあいの進め方—
3. 「オンライン・ナウ」で進める異業種交流学習会  
—学び直しのインターチェンジ—
4. 「いま、ここ」で進める異業種交流学習会  
—偶発性が生み出す事業創造のヒント—
5. 社会人のための宇都宮大学大学院の「入り方、学び方」

有料講座

6. 戦争と人情  
—国際事情の「これまで」と「これから」—
7. 物と生き物、動物と人物  
—文系系区分を超えた生物学講座—
8. 日本のコメ作り  
—知っておいて損はないコメ作りに関する知識—
9. 安全・安心について考えよう 2022  
—身近な危険・その意味をあらためて考えてみましょう—
10. 後悔しないための心理学の知恵  
—人生で重要な意思決定に向けたアドバイス—
11. 指揮を学んでみましょう  
—ご自分で悩んでいるあなたへ—
12. 栃木県内地域づくり事例研究
13. 「オンライン・ファシリテーター」養成講座  
—「オンライン・ナウ」の可能性を引き出す—
14. ファシリテーションの理論と実践  
—出会い・ふれあい・学びあいを円滑化するヒント—
15. オンラインで進めよう異業種交流学習会  
—学び直しと創造性発揮との道理をめざして—
16. 異業種交流ファシリテーションによる学びあい講座  
—学習的交流から始める事業創造—

面接型 オンライン型 全16講座

宇都宮大学 地域創生推進機構 宇大アカデミー 生涯学習研究開発室

TEL 028-649-5144 FAX 028-649-5145

(令和4年度ポスター)

面接型 オンライン型 全16講座

令和4(2022)年度 宇都宮大学 公開講座

〈開催案内〉

主催 宇都宮大学

宇都宮大学 地域創生推進機構

(令和4年度パンフレット表紙)

令和4年度宇都宮大学公開講座の実施状況

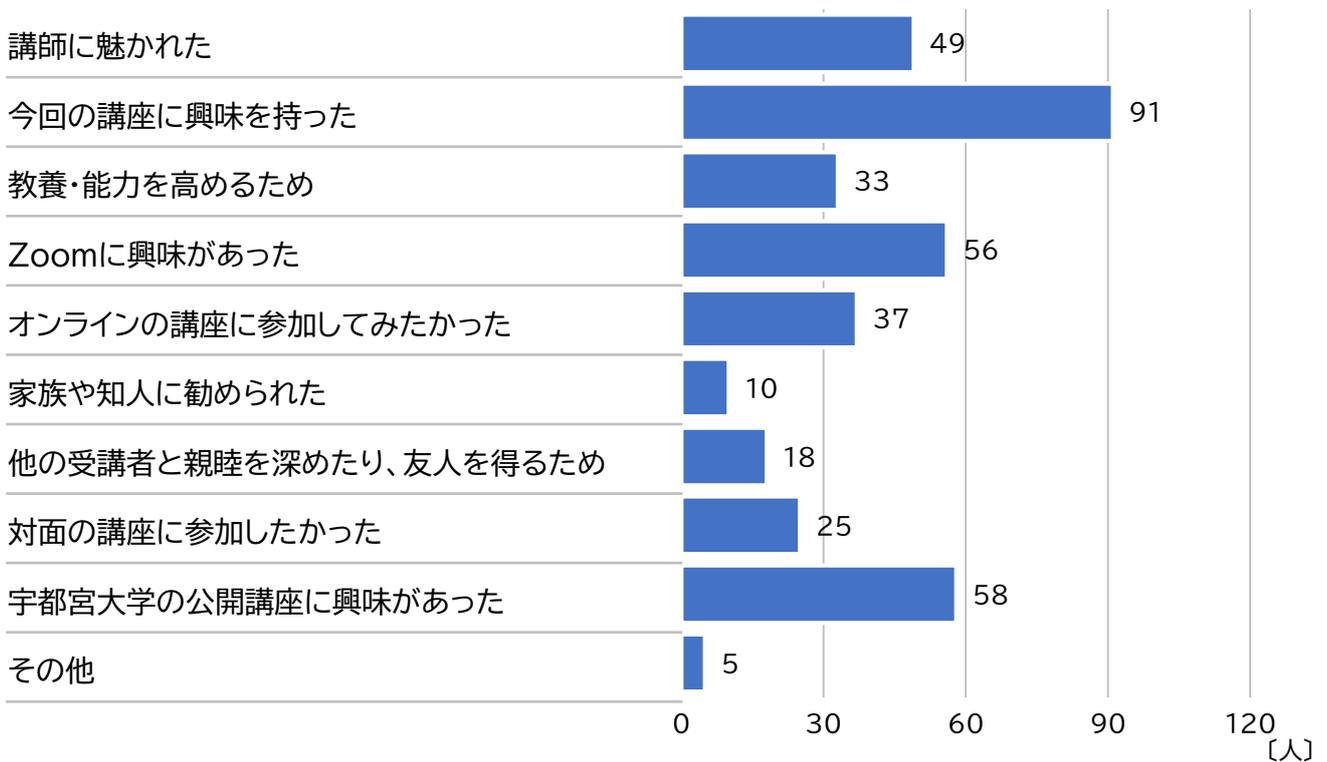
料金形態	分類	番号	講座形態	講座名	総回数(回)	総時間(時間)	実施期日及び実施時間帯		講師	定員(人)	受講料(円)	受講者数(人)	受講料収入(円)	備考
							(月日)	(曜日、時間帯)						
無料	特別無料講座	1-A	オンライン	始めたい貴方のための「オンライン話しあい」入門 —超初心者も楽しめる遠隔型コミュニケーション—	1	2	7/5(火)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	30	0	8	0	
		1-B			1	2	7/5(火)	18:45-20:45	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	30	0	8	0	
		1-C			1	2	7/9(土)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	30	0	12	0	
		2-A	対面	「いま、ここ」ならでのコミュニケーションを愉しもう! —出会い・ふれあい・学びあいの進め方—	1	2	10/1(土)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	15	0	11	0	
		2-B			1	2	10/6(木)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	15	0	8	0	
		2-C			1	2	10/6(木)	18:45-20:45	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	15	0	6	0	
		3-A	オンライン	「オンライン・ナウ」で進める異業種交流学習会 —学び直しのインターチェンジ—	1	2	7/16(土)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	30	0	8	0	
		3-B			1	2	7/19(火)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	30	0	0	0	
		3-C			1	2	7/19(土)	18:45-20:45	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	30	0	11	0	
		4	対面	「いま、ここ」で進める異業種交流学習会 —偶発性が生み出す事業創造のヒント—	1	2	1/21(土)	14:30-16:30	地域創生推進機構 教授 佐々木英和	15	0	16	0	
5	オンライン	社会人のための宇都宮大学大学院の「入り方、学び方」	3	6	7/4(月) 7/5(火) 7/6(水)	18:00-20:00	地域創生科学研究科長 湯上登 地域創生推進機構 廣瀬隆人	10	0	13	0			
計		5講座(対面型:2講座、遠隔オンライン型:3講座)、11コース	計13回	計26時間	実施期間: 7/5~1/21	関与講師人数計 3名	250		101	0				

令和4年度宇都宮大学公開講座の実施状況(続き)

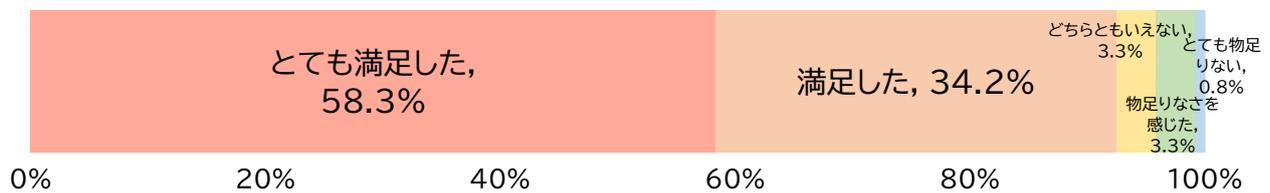
料金形態	分類	番号	講座形態	講座名	総回数(回)	総時間数(時間)	実施期日及び実施時間帯		講師	定員(人)	受講料(円)	受講者数(人)	受講料収入(円)	備考
							(月日、曜日、時間帯)	(月日、曜日、時間帯)						
有料	教養・文化	6	オンライン	戦争と人権 —国際事情の「これまで」と「これから」—	5	10	7/7(木) 7/14(木) 7/21(木) 7/28(木) 8/4(木)	10:00-12:00	国際学部准教授 清水奈名子 国際学部准教授 藤井広重	20	5,500	10	55,000	
		7	オンライン	物と生き物、動物と人物 —文系理系区分を超えた生物学講座—	5	10	8/27(土) 9/3(土) 9/10(土) 9/17(土) 9/24(土)	10:00-12:00	農学部教授 飯郷雅之	15	5,500	6	33,000	
		8	対面	日本のコメ作り —知っておいて損はないコメ作りに関する知識—	5	10	10/13(木) 10/20(木) 10/27(木) 11/17(木) 11/24(木)	14:00-16:00	農学部附属農場教授 高橋行継	15	5,500	9	49,500	
		9	オンライン	安全・安心について考えよう 2022 —”身近な危険”、その危険をあらためて考えてみましょう—	5	10	10/15(土) 10/22(土) 10/29(土) 11/5(土) 11/12(土)	14:30-16:30	コーディネーター 地域創生推進機構教授 佐々木英和 元宇都宮大学教授 松岡猛 明治大学名誉教授 向殿政男 元運輸安全委員会委員 垣本由紀子 横浜国立大学大学院 客員教授 野口和彦	25	5,500	6	33,000	
		10	オンライン	後悔しないための心理学の知恵 —人生で重要な意思決定に向けたアドバイス—	5	10	11/19(土) 11/26(土) 12/3(土) 12/10(土) 12/17(土)	14:30-16:30	地域創生推進機構教授 佐々木英和 元日本心理学会理事長 繁樹算男 東京大学名誉教授 慶応義塾大学訪問教授	20	5,500	20	110,000	
		11	対面	指揮を学んでみましょう —ご自分で悩んでいるあなたへ—	3	10	10/22(土) 11/12(土) 12/10(土)	13:00-16:00 13:00-16:00 13:00-17:00	共同教育学部准教授 高島章悟	15	5,500	9	49,500	
		12	オンライン	栃木県内地域づくり事例研究	5	10	9/26(月) 9/27(火) 9/28(水) 9/29(木) 9/30(金)	18:00-20:00	地域創生推進機構 廣瀬隆人	15	5,500	0	0	不開講
		13	オンライン	「オンライン・ファシリテーター」養成講座 —「オンライン・ナウ」の可能性を引き出す—	5	10	10/8(土) 10/15(土) 10/22(土) 11/5(土) 11/12(土)	10:00-12:00	地域創生推進機構教授 佐々木英和	15	5,500	12	66,000	
		14	対面	ファシリテーションの理論と実践 —出合い・ふれあい・学びあいを円滑化するヒント—	5	10	10/11(火) 10/18(火) 10/25(火) 11/1(火) 11/8(火)	18:45-20:45	地域創生推進機構教授 佐々木英和	15	5,500	6	33,000	
		15	オンライン	オンラインで進めよう異業種交流学習会 —学び直しと創造性発揮との循環をめざして—	5	10	11/19(土) 11/26(土) 12/3(土) 12/10(土) 12/17(土)	10:00-12:00	地域創生推進機構教授 佐々木英和	15	5,500	7	38,500	
		16	対面	異業種交流ファシリテーションによる学びあい講座 —学びあいから始める事業創造—	5	10	11/22(火) 11/29(火) 12/6(火) 12/13(火) 12/20(火)	18:45-20:45	地域創生推進機構教授 佐々木英和	15	5,500	7	38,500	
計			11講座(対面型:4講座、遠隔オンライン型:7講座)、11コース	計53回	計110時間	実施期間:7/7~12/20		関与講師人数計 12名	185		92	506,000		
全体	計		16講座(対面型:6講座、遠隔オンライン型:10講座)、22コース	計66回	計136時間	実施期間:7/5~1/21		関与講師人数計 15名	435		193	506,000		

◆令和4年度 公開講座受講後アンケート結果 N=120

質問1 講座に参加された目的・動機を教えてください ※複数回答可能です



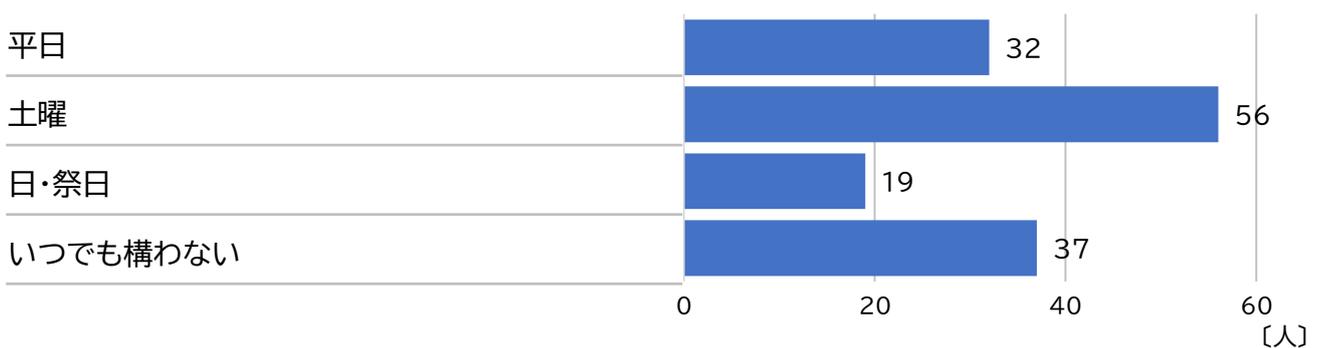
質問2 この講座のあなたの満足度を教えてください



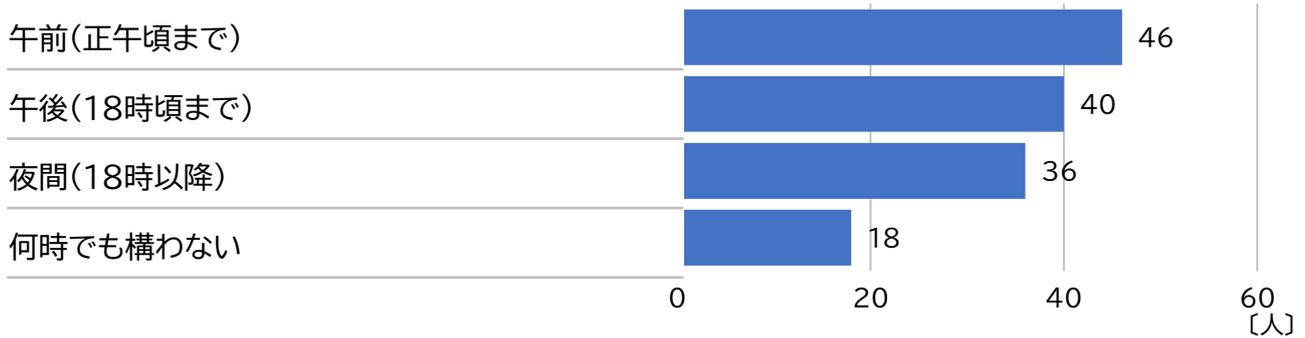
質問3 この講座の難易度をお選びください。



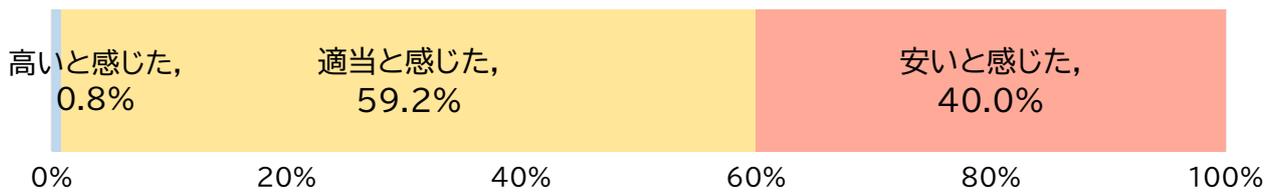
質問4 公開講座に参加するならばどの曜日を希望されますか ※複数回答可能です



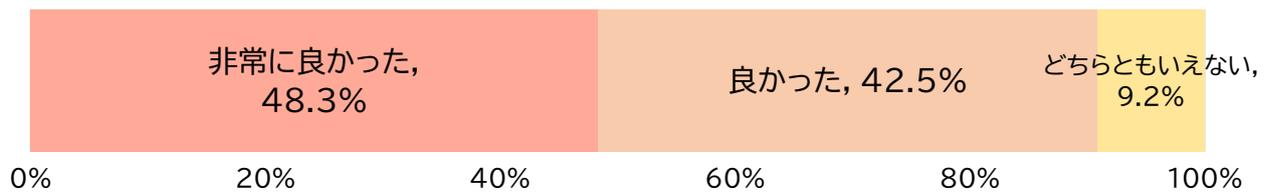
質問5 公開講座に参加するならばどの時間帯を希望されますか？ ※複数回答可能です



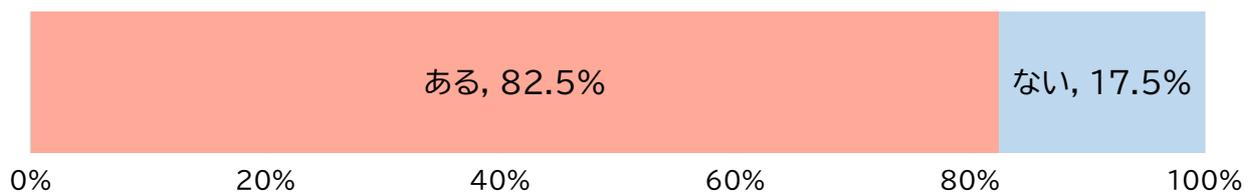
質問6 受講された講座の受講料について適当なものを1つお選びください。



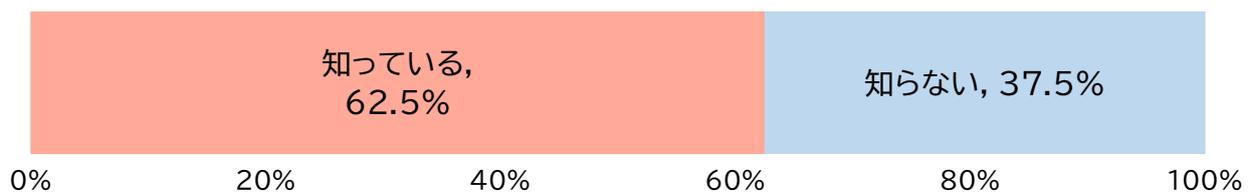
質問7 電話対応等も含めて、対応はいかがでしたか？



質問8 宇都宮大学の公開講座のホームページをご覧になったことはありますか？



質問9 宇都宮大学が社会人の学びを支援するため、公開講座以外に「UUカレッジ」や「宇大未来塾」を開講していることをご存じですか？



## 生涯学習研究開発室としての活動

本学の公開講座は、宇大アカデミーの中でも生涯学習研究開発室が企画・実施しています。生涯学習研究開発室では、そのための準備的・基盤的な活動も含めて、教育・研究や社会貢献活動を進めています。

### ◆生涯学習に関する研究活動

教育基本法(1947年制定、2006年改正)の第3条に「生涯学習の理念」という見出しで「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と明記してあることに鑑み、生涯学習研究開発室では、生涯学習振興のための研究的基盤を多角的に充実させることに努めています。

### 令和4年度の研究活動・研究成果

本年度は、遠隔オンライン型やハイブリッド形式で授業やワークショップを行う際の可能性や課題について、理論と実践を往還させるような研究成果を発表しました。また、従来から進めてきた「自己実現」に関する研究を例題として、市民が自ら研究活動を行うためのノウハウも明らかになるような論文を発表しました。

- ・佐々木英和「ICT利活用による『参加交流型学習』の理論－超初心者が『オンラインナウ』で学びあう意義－」、一般財団法人日本青年館「社会教育」編集部編『社会教育』2022年7月号(通巻第913号)、2022年7月、10-17頁
- ・佐々木英和「高度情報通信ネットワーク社会における教師概念の類型論－『教授空間』と『学習空間』との関係性をめぐる応用的考察－」、宇都宮大学共同教育学部編『宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要』9号、2022年8月、385-392頁
- ・佐々木英和「辞書活用的に進める言葉の探索法－日本語『自己実現』を例題とした一試論－」、宇都宮大学共同教育学部編『宇都宮大学共同教育学部研究紀要』第73号、2023年3月、121-138頁。

### ◆生涯学習の研究成果を生かした社会貢献

教育基本法(1947年制定、2006年改正)の第7条に「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と明記してあることに鑑み、生涯学習振興に関する社会貢献、特に地位貢献についての成果について、主なもののみ示します。

### 令和4年度の活動

地方自治体に対する支援活動としては、栃木県さくら市の生涯学習アドバイザーとして、策定された生涯学習推進計画の進捗状況に対する意見等を述べました。

学校に対する支援活動としては、佐々木英和教授が栃木県立宇都宮白楊高校の学校評議員として、学校評議員連絡会に出席するなど、各種指導を行いました。

全国レベルでは、佐々木英和教授が、全国国立大学生涯学習系センター研究協議会の副会長として、以下の活動を行いました。

- ・第44回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会(実施校:大分大学、2022(令和4)年9月12日(月)～13日(火)、対面・遠隔オンラインのハイブリッド形式)第二分科会におけるSDプログラムの講師(全国の大学開放担当職員対象)。
- ・令和4年度「文部科学省との意見交換会」(会場:文部科学省、2022(令和4)年12月5日(月)、対面・遠隔オンラインのハイブリッド形式)における全体司会。

## IV-2 UUカレッジ

UUカレッジは、平成30年度後期に開始されました。大学の地域貢献を目的に、体系的な学修の機会を提供し、探究心や職業生活や地域の課題解決、豊かな人生、地域づくりなどの多様な学習ニーズに合わせて計画的な学びを支援しています。

### 特徴

基盤教育及び学部で開設されている授業のうち「講義」を公開する制度としてスタートしました。これまでも単位取得を目的とした「科目等履修生制度」がありましたが、UUカレッジは、単位を取得しない学びの制度としてスタートしています。その特徴は次の通りです。

- (1)受講料を安価にしたこと(科目等履修生制度に比べ1/3程度)。
- (2)体系的な学びやきめ細かい学修の支援のために宇都宮大学に勤務経験のある元教員がメンターとして助言するとともに包括的にサポートしていること。
- (3)受講者間の交流を促し、孤立させることなく学修を継続するために、期末ごとのふりかえりを開催するとともに専用ラウンジを設けたこと。
- (4)系統的な学習を支援する履修証明プログラム(特定領域コース)を開設していること。

### 制度の概要

この制度は、基本的に科目等履修生制度をベースにしています。

- (1)受講可能科目は、シラバスに記載された「科目等履修生受入可」の講義科目とした。
- (2)在籍期間は4年間とし、再入学することは可能。
- (3)単位取得を目的としないこととなるので、試験の受験、レポートの提出等の義務はない。
- (4)学期あたり6科目まで受講を可能とした。
- (5)「特定領域コース」を設定して、修了者には「履修証明書」を交付する。
- (6)初年度の受講開始は、後期とする。

### 令和4年度のUUカレッジ再開について

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度前期～令和3年度前期の間、対面式授業を前提としたUUカレッジは休止され受講者の募集も実施しませんでした。令和4年度になり感染症の収束が確認されたことから、後期からの受講再開とともに新規受講者も募集されました。

区分別在籍者数		R4年9月現在
区分	在籍者数	
1期生 平成30年	35名(女12・男23)	
2期生 令和元年	25名(女10・男15)	
3期生 令和4年	8名(女1・男7)	
合計	68名(女23・男45)	

## 新型コロナウイルスの影響による在籍期間延長措置

令和4年度6月に、2年半の受講休止期間に対して「新型コロナウイルス感染症の影響による在籍期間延長措置」がとられ、受講期間が延長されました。

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1期生 H30年後期～	●	●	●						●再開	○	○	○	○					
2期生 R元年後期～			●						●再開	○	○	○	○	○	○			
3期生 R4年後期～								受講受付準備	●受講開始	○	○	○	○	○	○			○期間終了

## 履修証明プログラムについて

平成19年度の学校教育法改正によって誕生した、社会人などを対象とした新しい履修・学修の証明が履修証明制度です。UUカレッジでは令和4年度後期より履修証明制度を導入しました。本学が指定する特定の授業科目群(コース)を3年間で受講することで、学修を体系的に行ったことを認証します。60時間以上の学修時間を満たしたと認められる場合は、学校教育法の定めにもとづく「履修証明書」が交付されます。

これらのコースを受講することは、学びの継続の手助けとなります。

### 特定の授業科目群コース

(A) 調査研究アナライザー(3科目)	(E) 地域づくりコーディネーター(4科目)
(B) 経済分析モデレーター(4科目)	(F) 防災コーディネーター(4科目)
(C) 心理分析モデレーター(3科目)	(G) 地域福祉コーディネーター(3科目)
(D) 多文化共生モデレーター(4科目)	

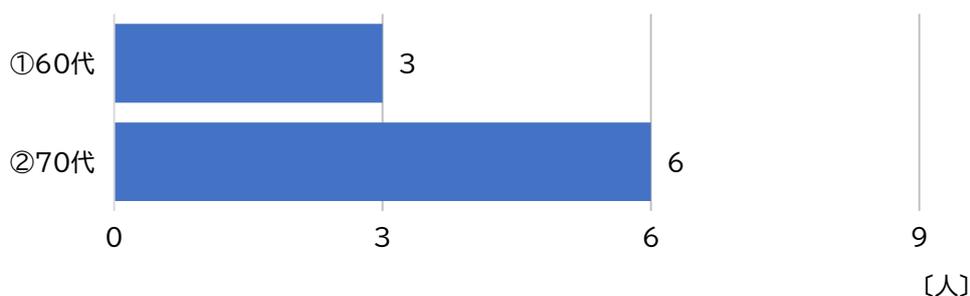
## 実施報告

令和4年度はCラーニング導入に向けての学習会や受講に関する説明会、振り返り会、受講開始前オリエンテーション、メンター個別面談を実施しました。

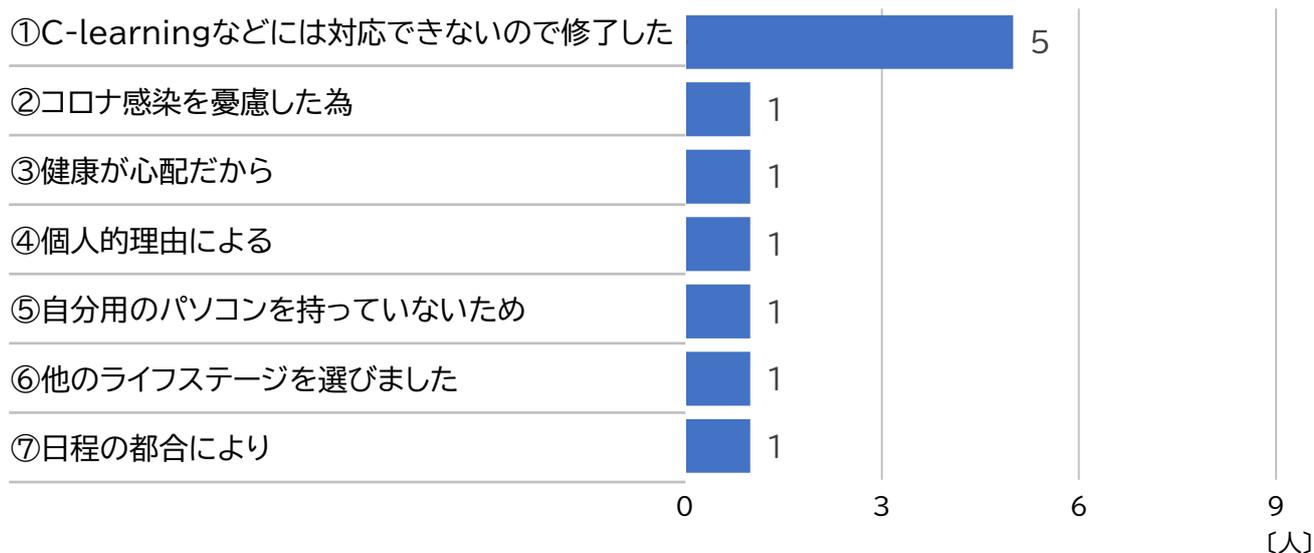
(1)	6月2日	UUカレッジの再開についての通知送付
(2)	7月7日 7月19日	受講者説明会の実施(履修証明プログラムを含む)
(3)	7月1日～ 7月31日	メンターとの出願前個別面談実施(継続意向調査・受講科目の決定)
(4)	7月23日	新規受講者説明会の実施(履修証明プログラムを含む)
(5)	7月23日～ 8月3日	R4年度後期出願受付
(6)	8月19日～ 9月20日	Cラーニング説明会(3回セット×2)
(7)	9月10日	R4年度後期開始前オリエンテーション
(8)	10月3日～	R4年度後期受講開始(各種問い合わせ対応)
(9)	10月20日	メンターに関するお知らせ通知送付
(10)	1月5日～ 1月31日	メンターとの学年末個別面談(振り返り・次年度の受講科目決定)
	2月初旬	R4年度後期受講終了
(11)	2月18日	全体振り返り会(グループごとの振り返り・受講科目申請書の提出など)
(12)	2月18日～ 2月28日	R5年度前期出願受付

## R3年度UUカレッジ修了者アンケート (修了者24名中 回答者9名)

1. 年代を教えてください。



## 2. 修了の理由について当てはまるものをお選びください ※複数回答可

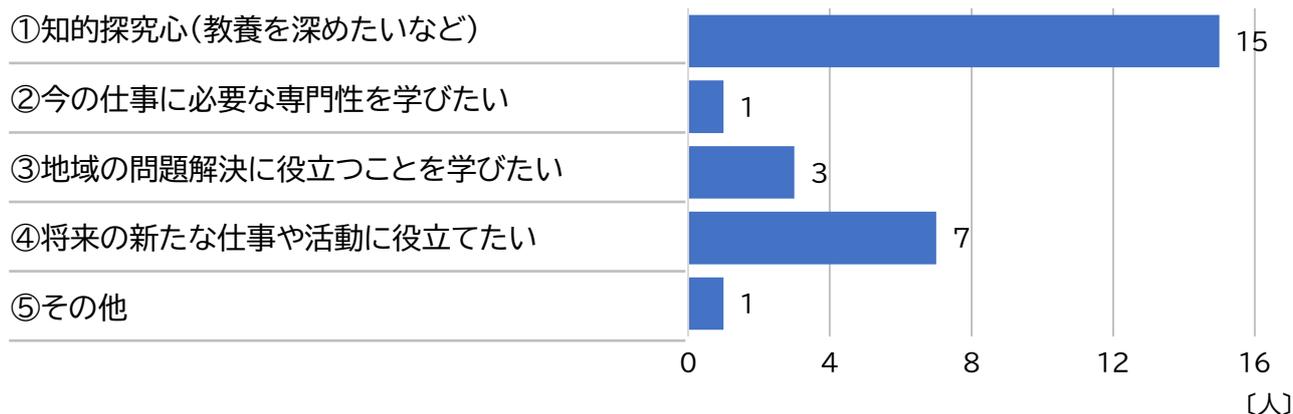


## 3. その他ご感想などをお書きください。

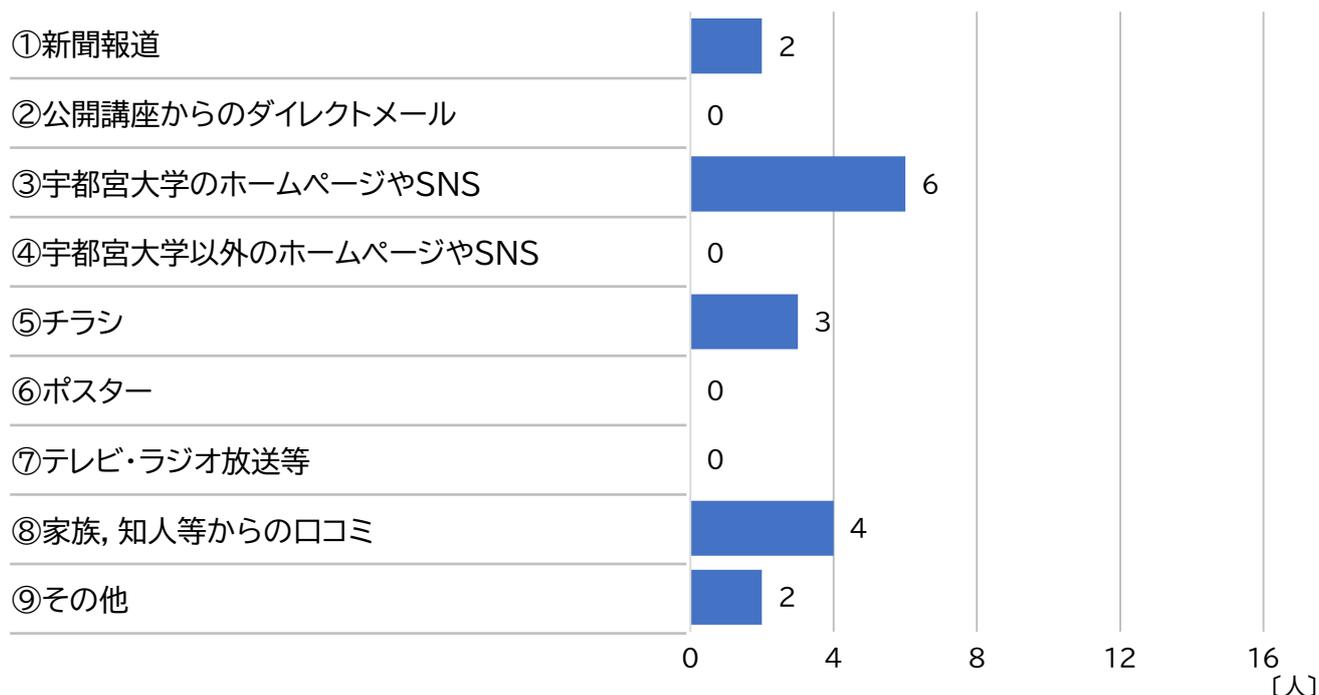
- 有意義なUUカレッジで修了することは、たいへん残念でした。現役の大学生とともに学べた1年間は人生の大きな収穫となりました。
- 途中修了となりましたが1年半講座を聞いたことは大変意義あるものでした。
- 私のような高齢の受講生に戸惑いを感じられたと思いますが、親切に対応していただき大変感謝しています。毎回の授業の後に一言二言お礼の言葉などかけたかったのですが、ご迷惑になると思い遠慮していました。
- コロナでオンラインになり残念です。

## 令和4年度 UUカレッジ新規受講者説明会アンケート N=16

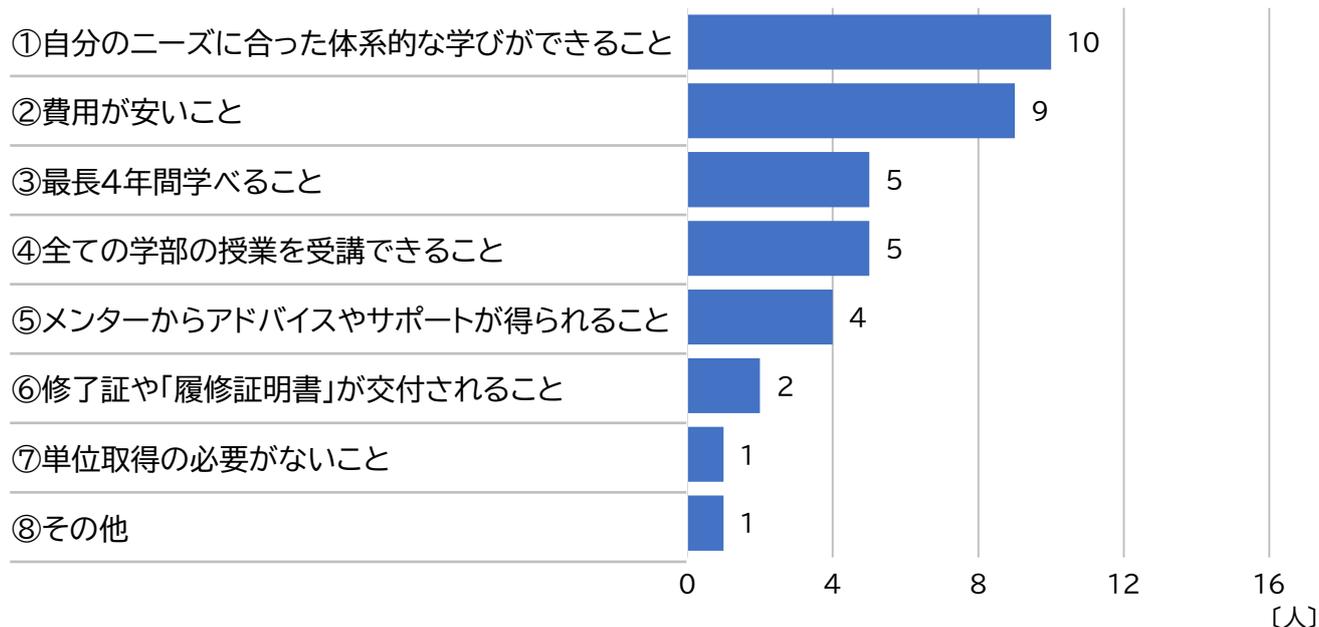
### 1.どのような動機でUUカレッジに興味を持ちましたか？ ※複数回答可



## 2. UUカレッジを何から知りましたか？ ※複数回答可



## 3. UUカレッジのどこに魅力を感じますか？ ※複数回答可



## 4. わかりにくい点、改善した方がよいと思われる点などがありましたら、お書きください。

- 宇都宮大学UUカレッジのHPが6月の時点でH30年度となっていたので迷いました。
- 土曜日、日曜日18:00以降に講義があると社会人が受講しやすいです。

### 今後の課題

1. C-Learningに移行して、これまでの受講者がやめて行く流れがありましたが、新規の受講者はパソコン操作に慣れている人々が多くなっています。そうするとこれまでより受講者同士のコミュニケーションが激減し、受講者が孤立しがちとなります。
2. 受講科目の決定においてミスマッチを防ぐために制度を見直し、学生と同様に4月中のお試し受講をへて受講科目を決める方式の検討が必要と考えられます。

## より広く、より深く学ぶ！ 履修証明制度

平成19年度の学校教育法改正によって誕生した、社会人などを対象とした新しい履修・学修の証明が履修証明制度です。一定のまとまりのある学修プログラム(履修証明プログラム)を開設し、修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付できるようになりました。

宇都宮大学が指定する特定の授業科目群(コース)を受講することで、ある分野に対して目的や関心を持ち、そのための学修を体系的に行ったことを認証します。履歴書にも記入できます。コースごとに指定された認証取得条件を満たして申請すると、「履修証明書」が交付されます

### A 調査研究アナライザーコース(3科目)

社会調査や地域調査の基礎的知識を学び地域で調査研究の視点を持つ人材の育成を図ることを目的としています。(総時間数67.5時間) 下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。地域での活動を展開する際に科学的根拠や裏付けをもって説明することに関心のある方々に適しています。「社会調査法」「社会調査実習」「地域調査法」の科目を受講します。

### B 経済分析モデレーターコース(4科目)

経済に関する基礎的知識を学習して、経済学の専門知識を生かした地域経済活動を推進する人材の育成を図ることを目的としています。(総時数90時間) 下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。主として地域の経済活動の活性化に関心のある方々に適しています。「地域金融論」「公共経済学」「経済分析入門」「農業経済学」の科目を受講します。

### C 心理分析モデレーターコース(3科目)

心理学に関する基礎的素養を身につけて、自らの人生を豊かなものとする事ができる人材の育成を図ることを目的とします(総時間数67.5時間)。下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。主として地域社会でのコミュニケーションの充実と一人ひとりの生活の豊かさや学びの質を高めることに関心のある方々に適しています。「教育心理学」「集団心理学」「対人コミュニケーション論」の科目を受講します。

### D 多文化共生モデレーターコース(4科目)

多文化共生に関する基礎的な知識と多文化理解に関わる専門的な視点を身につけて、地域の国際化に対応して、人権教育や外国人の生活支援のコーディネートをする人材の育成を図ることを目的とします。(総時数90時間) 下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。主として在日外国人の生活支援や国際理解に関心のある方々に適しています。「多文化共生論入門」「多文化理解論」「移民と多文化教育」「多文化共生コアA」の科目を受講します。

### E 地域づくりコーディネーターコース(4科目)

地域づくりに関する基礎的な知識と地域づくりに関わる社会教育理論を学ぶことにより、地域の人のつながりを創り出す事業の企画立案を進める人材の育成を図ることを目的とします。(総時数90時間) 下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。主として自治会での活動や地域福祉団体の活動をコーディネートする人材の育成に関心のある方々に適しています。「まちづくり論」「生涯学習社会論」「希望の地域社会論」「地域福祉論」の科目を受講します。

### F 防災コーディネーターコース(3科目)

地域防災に関する専門的知識を学び地域の防災計画や防災事業を企画立案するなどのコーディネートを担う人材の育成を図ることを目的とします。(総時間数67.5時間)下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。主として地域防災や防災プログラムの企画立案に関心のある方々に適しています。「防災マネジメントⅠ」「防災マネジメントⅡ」「Disaster Studies(災害研究)」の科目を履修します。

### G 地域福祉コーディネーターコース(3科目)

地域福祉に関する基礎的素養を身につけて、地域福祉計画の企画立案、地域福祉活動のコーディネートを担当する人材の育成を図ることを目的とします。(総時間数67.5時間)下記の科目を受講して必要な学修時間を満たしたときに、履修証明書が交付されます。主として地域の高齢者サロンや地域福祉の担い手育成に関わる人材の育成や地域福祉そのものに関心のある方々に適しています。「地域福祉論」、「児童福祉論」、「社会福祉学概論」の科目を履修します。

### ◆特定領域コース【履修証明制度】(各コース定員5名)

特定の領域の科目を系統的に受講し、本学が履修証明を発行し、広く社会で生かすことができる学修を提供します。60時間以上の学修時間を満たしたと認められる場合は、学校教育法の定めにもとづく「履修証明書」を交付します。(3年間で履修します)

<b>A</b> -3科目- 調査研究アナライザー コース (定員5名)	<b>B</b> -4科目- 経済分析モデレーター コース (定員5名)	<b>C</b> -3科目- 心理分析モデレーター コース (定員5名)	<b>D</b> -4科目- 多文化共生モデレーター コース (定員5名)
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶社会調査法</li> <li>▶社会調査実習</li> <li>▶地域調査法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶地域金融論</li> <li>▶公共経済学</li> <li>▶経済分析入門</li> <li>▶農業経済学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶教育心理学</li> <li>▶集団心理学</li> <li>▶対人コミュニケーション論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶多文化共生論入門</li> <li>▶多文化理解論</li> <li>▶移民と多文化教育</li> <li>▶多文化共生コアA</li> </ul>
<b>E</b> -4科目- 地域づくり コーディネーターコース (定員5名)	<b>F</b> -3科目- 防災コーディネーター コース (定員5名)	<b>G</b> -3科目- 地域福祉 コーディネーターコース (定員5名)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶まちづくり論</li> <li>▶生涯学習社会論</li> <li>▶希望の地域社会論</li> <li>▶地域福祉論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶防災マネジメントⅠ</li> <li>▶防災マネジメントⅡ</li> <li>▶Disaster Studies (災害研究)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶地域福祉論</li> <li>▶児童福祉論</li> <li>▶社会福祉学概論</li> </ul>	

※E:地域福祉団体の活動をコーディネートする人材の育成に関心のある方々に適しています。



## IV-3 宇大未来塾

宇大未来塾  
UDAI MIRAIJUKU

宇大未来塾は、栃木県内の産業界や地域社会を担う社会人を対象に、21世紀の地域のニューリーダーを育てるため、本学の教育資源と栃木県を代表する企業経営者等との連携により平成29年度から開講しています。学長を塾長に、特別顧問に栃木県知事と栃木県経済同友会筆頭代表理事を、顧問及びシニアアドバイザーに栃木県内の経済界のトップリーダー等を迎え、各界のリーダーや弁護士、本学教員等が講師となり、社会人の人材育成を行っています。

### とちぎ志士プログラム

とちぎ志士プログラムは、宇大スピリット「3C精神」を持った魅力的な“とちぎ人”の創出をめざし、県内の青年層を対象に、専門的知識、チャレンジ精神やコミュニケーション能力、論理的思考力と応用力といった個人の能力開発と、人的ネットワークを持続的に発展させる起点とすることを目的に開講しています。

#### ◆プログラムの実施概要

令和4年度前期プログラムは新型コロナウイルス感染拡大に伴いZoomによるオンラインで開講しましたが、後期プログラムは対面で開講し希望者にはオンライン出席を可能とするなど受講者に配慮しながら以下のとおり開講しました。

#### 〔令和4年度前期プログラム〕 オンライン

日時	講演テーマ及び講師等
6月22日(水) 19:00~21:00	開講式 「STI for SDGs」分野融合・対話と共創 講師：宇都宮大学 学長 池田 幸 氏
7月9日(土) 13:00~15:00	環境資源を活かした地域の再創生 講師：宇都宮大学地域デザイン科学部 教授 横尾 昇剛 氏
7月9日(土) 15:15~17:15	妄想から始まる界限づくり ~モミジ通りを事例に~ 講師：株式会社ビルスタジオ 代表取締役 塩田 大成 氏
7月20日(水) 19:00~21:00	栃木県の歴史と文化 ~歴史に学ぶ郷土の誇り~ 講師：宇都宮大学農学部 教授 大栗 行昭 氏
7月27日(水) 19:00~21:00	行政の変革と官民連携 講師：元つくば市副市長 毛塚 幹人 氏
8月10日(水) 19:00~21:00	“欲しいを創る”マーケティング 講師：株式会社ファーマーズフォレスト 代表取締役 松本 謙 氏
8月17日(水) 19:00~21:00	人生100年時代の地方創生 ~住民の「学び」が地域を変える／「つながれない社会」をつなぎ直す~ 講師：東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏
8月24日(水) 19:00~21:00	人の力を引き出す力「コーチング」 講師：ヤマゼンコミュニケーション株式会社 常務取締役 山本 純子 氏
9月7日(水) 19:00~21:00	全体振り返り・キックオフミーティング

〔令和4年度後期プログラム〕 対面

日 時	講演テーマ及び講師等
10月5日(水) 18:30~21:00	開講式 法的素養を備えて、3C 人材へ 講師: 大川総合法律事務所 弁護士 大川 容子 氏
10月8日(土) 10:00~21:00	とちぎから世界へ挑戦する。～デジタル活用で世界との距離が変化中、新しいグローバル人材の資質を模索する～ 講師: 日本貿易振興機構 栃木貿易情報センター所長 宮崎 佳菜 氏
10月8日(土) 13:00~15:00	交流会
10月12日(水) 19:00~21:00	宇都宮から日本・世界に羽ばたく 講師: 株式会社キッズコーポレーションホールディングス 代表取締役 大塚 雅一 氏
10月19日(水) 19:00~21:00	トップリーダー挑戦の源泉と軌跡 講師: トヨタウッドユーホーム株式会社取締役会長 中津 正修 氏
10月26日(水) 19:00~21:00	医工連携からヘルスケアイノベーションへ ～辺境の地からの挑戦～ 講師: 高知大学医学部環境医学教授(宇都宮大学客員教授) 菅沼 成文 氏
10月29日(土) 10:00~12:00	情報の真偽を捉える知識と思考 ～健康情報を事例に～ 講師: 宇都宮大学 理事・副学長 吉澤 史昭 氏
11月2日(水) 19:00~21:00	組織を続けるお金のコト(税・財務・資金繰り) 講師: 税理士法人浜村会計 税理士 浜村 美香 氏
11月9日(水) 19:00~21:00	観光庁が仕掛ける観光地域づくり法人DMO の先進事例を学ぶ。 田舎を観光地化して注目される大田原ツーリズムの取り組みとその視点を学ぶ。 講師: 株式会社大田原ツーリズム 代表取締役 藤井 大介 氏
11月16日(水) 19:00~21:00	キックオフミーティング

受講対象者

20歳～45歳以下の社会人で自分の未来や可能性を広げようとする意志のある者

受講料

30,000円(宇大倶楽部個人会員は20,000円)

受講者及び修了者数等

区分	定員	受講者数	修了者数	うち学内教職員※
令和4年度前期	40名	21名	21名	3名
令和4年度後期	40名	15名	14名	1名

※ 本プログラムは、学外者のみならず事務職員の自己啓発研修としても活用されています。

宇大 未来塾 SHISHI

未来をー。

延長線上にない

次の栃木。

次の自分。

第6期 前期全9回 募集

トップリーパーによる 志士プログラム 3C人材育成プログラム

「とちぎ志士プログラム」

オンライン

2022 6.22 - 9.7

20歳～45歳以下の社会人で、自分の未来や可能性を広げようとする意欲のある者へ。

栃木のトップリーパーが講師や応援団として支えます。

変化を創り出す力と自信、未来を創り出していく仲間とのネットワークが広がります。

挑戦を支える高いコミュニケーション力、チームマネジメント力、社会を強く分析・課題抽出等から応用能力を高めます。

チャレンジ精神やコミュニケーション能力、論理的思考力と応用力を育て持った次世代を担う地域のリーダー。"とちぎの志士"たる、30人組の育成と、その人的ネットワークを積極的に発展させる活動となること、未来を志すプログラムの目的です。ともに学び、未来を創りましょう！

3C人材育成  
"Challenge"→本格的な挑戦。"Change"→時代の変化に即応して自らを変え、また"Contribution"→広く社会に貢献する、という"3C"の中で、専攻し、学業・就職・起業に向けて、自らを高め、挑戦によって、個人・社会に貢献する人材。

池田 浩一 宇都宮大学 学長

宇大 未来塾 SHISHI

未来をー。

延長線上にない

次の栃木。

次の自分。

第6期 後期全11回 募集

トップリーパーによる 志士プログラム 3C人材育成プログラム

「とちぎ志士プログラム」

対面開催

2022 10.5 - 11.16

20歳～45歳以下の社会人で、自分の未来や可能性を広げようとする意欲のある者へ。

栃木のトップリーパーが講師や応援団として支えます。

変化を創り出す力と自信、未来を創り出していく仲間とのネットワークが広がります。

挑戦を支える高いコミュニケーション力、チームマネジメント力、社会を強く分析・課題抽出等から応用能力を高めます。

チャレンジ精神やコミュニケーション能力、論理的思考力と応用力を育て持った次世代を担う地域のリーダー。"とちぎの志士"たる、30人組の育成と、その人的ネットワークを積極的に発展させる活動となること、未来を志すプログラムの目的です。ともに学び、未来を創りましょう！

3C人材育成  
"Challenge"→本格的な挑戦。"Change"→時代の変化に即応して自らを変え、また"Contribution"→広く社会に貢献する、という"3C"の中で、専攻し、学業・就職・起業に向けて、自らを高め、挑戦によって、個人・社会に貢献する人材。

池田 浩一 宇都宮大学 学長

(令和4年度前期募集チラシ)

(令和4年度後期募集チラシ)



(とちぎ志士プログラム開講の様子)

◆令和4年度とちぎ志士プログラムの受講者アンケート結果〈前期プログラム〉 N=12

年齢



0% 20% 40% 60% 80% 100%

職業



0% 20% 40% 60% 80% 100%

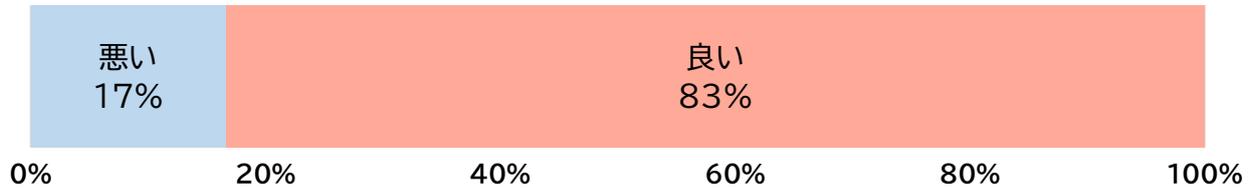
### プログラムの満足度



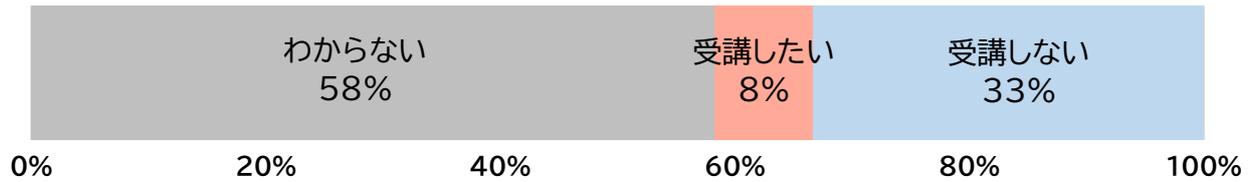
### 受講料の設定



### オンライン開催の感想



### 今後開講するニューフロンティアプログラムの受講希望



### ◆令和4年度とちぎ志士プログラムの受講者アンケート結果〈後期プログラム〉 N=9

#### 年齢



#### 職業



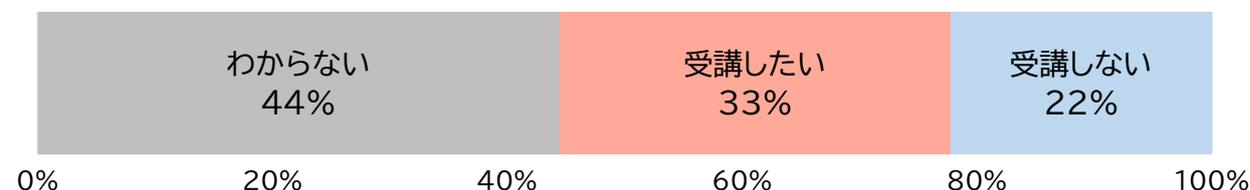
#### プログラムの満足度



## 受講料の設定



## 今後開講するニューフロンティアプログラムの受講希望



## 今後開講する次世代経営マネジメントプログラムの受講希望



## 受講者の満足度及び成果等

プログラムの満足度について「とても満足」と「満足」と回答した受講者の割合は100%であり、その理由として「講義や受講生同士のグループディスカッションを通して新たな発見や気づきが多く有意義だった」、「講義、参加者との交流、事務局運営、すべて素晴らしかった」などの記述が見られました。

なお、前期プログラムはオンラインで実施したことから、「リモート参加は時間的な制限を緩和してくれるためありがたかった」という意見があった反面、「やはり対面で生まれる気づき、学びの場は欲しい」という意見が目立ちました。

また、受講前と受講後の自身の変化では、「学長が言っていた複眼を体感した」、「自分自身の足りない所、新たな発見など得られた」、「地域貢献を目的としながら本当に自分はなにがやりたいのか、考え、挑戦したい気持ちになった」などの記述が多くみられ、本プログラムが目指す成果につながっています。

## 次世代経営マネジメントプログラム

次世代経営マネジメントプログラムは、とちぎ志士プログラムと同格かつその後のプログラムとして開講するものであり、次世代の経営人材、社内リーダー、期待される後継人材等が、新たな価値観の創造に必要な経営的視点、戦略的思考、マネジメント能力とネットワークを獲得し、変化の加速度を高めることを目的とするものです。

### プログラムの実施概要

令和4年度は対面で以下のとおり開講しました。

#### 【令和4年度プログラム】

日時	講演テーマ及び講師等
12月3日(土) 9:30~12:40	①宇都宮大学が捉える「共創」とは何か 講師：宇都宮大学 理事 副学長 吉澤 史昭 氏 ②オリエンテーション
12月17日(土) 9:30~12:40	③④デジタルトランスフォーメーション(DX)の実際 講師：益財団法人 日本英語検定協会 理事長 松川 孝一 氏
1月7日(土) 9:30~12:40	⑤⑥知財戦略 講師：知財経営戦略研究所 所長 生島 博 氏

1月22日(日) 9:30~12:40	⑦⑧経営戦略とコスト・マネジメント 講師：宇都宮大学 監事 溝口周二 氏
1月28日(土) 9:30~12:40	⑨⑩経営戦略とイノベーションへの挑戦(株TKCの事例から) 講師：株式会社TKC 相談役 角一幸 氏
2月4日(土) 9:30~12:40	⑪⑫地方の末端から日本を変える 講師：宇都宮大学 特命副学長 西村訓弘 氏
2月27日(月) 18:30~21:30	⑬⑭「経営戦略Ⅰ」 講師：慶応義塾大学 名誉教授 矢作恒雄 氏
2月28日(火) 18:30~21:30	⑮⑯「経営戦略Ⅱ」 講師：慶応義塾大学 名誉教授 矢作恒雄 氏
3月4日(土) 9:30~15:00	⑰⑱「経営理論概論」 講師：宇都宮大学 客員教授 久保博義 氏 ⑲修了式

### 受講対象者

次世代を担う経営者又は経営幹部、後継経営者、社内リーダー

### 受講料

60,000円(宇大倶楽部個人会員は50,000円)

### 受講者及び修了者数等

区分	定員	受講者数	修了者数
令和4年度	35名	16名	15名

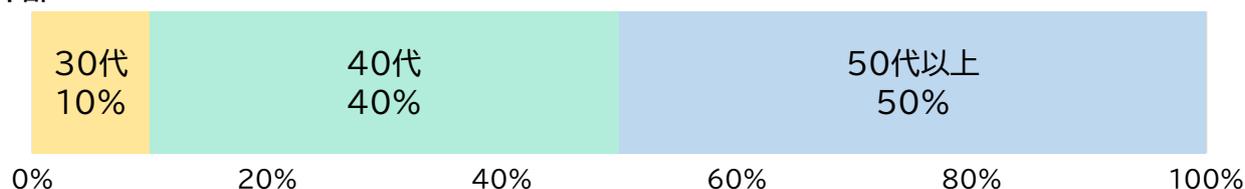


(修了式の様子)

(令和4年度募集チラシ)

◆令和4年度次世代経営マネジメントプログラムの受講者アンケート結果 N=10

年齢



職業



プログラムの満足度



受講料の設定



今後開講するニューフロンティアプログラムの受講希望



受講者の満足度及び成果等

プログラムの満足度について、「とても満足」と「満足」と回答した受講者の割合は100%であり、その理由として「書籍には無い生の情報を知ることができた」、「プログラムの内容がとても充実していた」などの記述が見られました。

また、受講前と受講後の自身の変化では、「受講を通して、戦略や特許、品質へのこだわり等、多くのことを深く検討しつつ並行で実践する必要があるというマインドに切り替わりました」、「経営課題の見つけ方の手法等を改めて勉強し、その視点を常に持って日々の仕事に取り組むことに関する意識が高まった」等の記述が見られました。

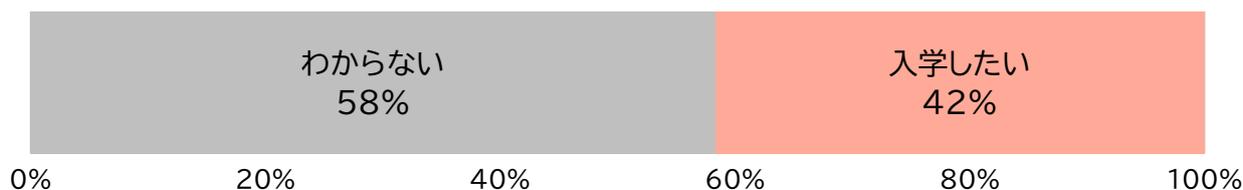
本学大学院に社会人向けプログラムを開設した場合の入学希望

教育未来創造会議では、大学等が提供する教育プログラムについて、短期の学びから学位取得に繋がるような学びに至るまで充実させるとともに、個人が容易にアクセスできる環境整備が必要であるとの提言がなされております。

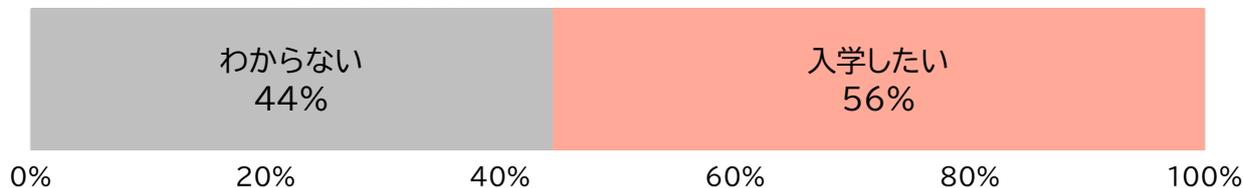
今回のアンケートでは、「本学の大学院に社会人向けの新たなプログラムが設置されたら入学したいと思いますか?」という項目を新たに設け、社会人のニーズ調査を行いました。その結果、「入学したい」と回答した者の割合は下記のとおりであり、約半数近い社会人が入学を希望していることがわかりました。

今回のアンケート結果から、宇大未来塾の修了者が希望により大学院の学位取得に繋がるような制度の必要性を認識する結果となりました。

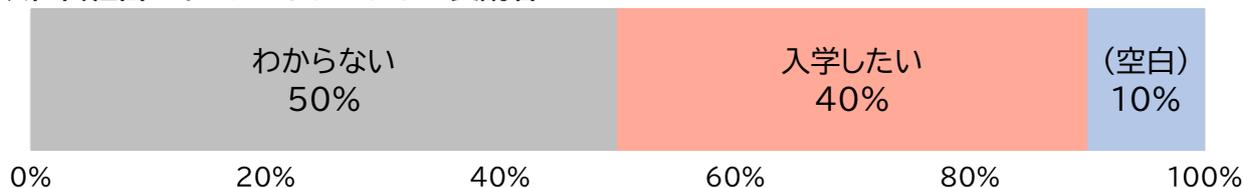
### とちぎ志士プログラム(前期)受講者



### とちぎ志士プログラム(後期)受講者



### 次世代経営マネジメントプログラム受講者



## ニューフロンティアプログラム

ニューフロンティアプログラムは、複数の大学教員や受講者同士の徹底的なディスカッションを通して、各受講者の仕事や取組で抱える多様な課題としっかりと向き合い、課題の解決や自身のステップアップにつなげることを目的に開講しています。

### プログラムの実施概要

令和4年度は対面で以下のとおり開講しました。

#### 〔令和4年度プログラム〕

日時	講演テーマ及び講師等
10月21日(金) 18:30~20:30	ガイダンス 講義「現在の日本と未来について」 特命副学長 西村訓弘
10月28日(金) 18:30~20:30	受講生全員によるショート・プレゼンテーション (1人10分/発表5分程度)
11月 4日(金) 18:30~20:30	受講生プレゼンテーション (1人40分/発表20分程度)
11月11日(金) 18:30~20:30	受講生プレゼンテーション (1人40分/発表20分程度)
11月18日(金) 18:30~20:30	受講生プレゼンテーション (1人40分/発表20分程度)
11月25日(金) 18:30~20:30	受講生プレゼンテーション (1人40分/発表20分程度)
12月 2日(金) 18:30~20:30	リフレクションのためのグループワーク
12月 9日(金) 18:30~20:30	受講生全員によるショート・プレゼンテーション (1人10分/発表5分程度) 修了証授与

**受講対象者**

若手起業家、経営者、第2創業者、創業を検討の方、自治体職員等

**受講料**

80,000円(宇大倶楽部個人会員は70,000円)

**受講者及び修了者数等**

区分	定員	受講者数	修了者数
令和4年度	16名	10名	10名



(講座の様子)

**NEW FRONTIER PROGRAM**

徹底した  
ディスカッションで  
共に新しい未来を  
描く

私たちの暮らし方や、暮らしを支える社会の在り方が大きく変わろうとしている現代、大学における学びの場の在り方もまた変わろうとしています。

この時代の大きな転換期に対応するため、このプログラムは若手起業家・経営者・第2創業者・創業予定者・自治体職員などを想定した現役世代を対象に、複数の大学教員や受講生同士との徹底的なディスカッションを通して、受講生それぞれの仕事や取組で抱える多様な課題にしっかりと向き合い、課題の解決や自身のステップアップにつなげていただくための学びの場です。

社会を共に創る異なる分野の人々と切磋琢磨することで、自らの潜在的な能力に気づき、人的ネットワークを広げ、自らの現場で活かしていただくことにより、受講生個人の能力開発・習得だけでなく、このプログラムが社会共創の起点となることを期待しています。

**令和4年度 宇大未来塾  
ニューフロンティア  
・プログラム** 9/20 申込締切

**参加者募集!**

**対象** 地域で新たな取り組みをしようと考えている方  
自身の可能性を広げようとする意欲のある方  
(若手起業家/経営者/第2創業者/創業をこ検討の方/自治体職員 etc.)

**開催日時** 令和4年10月21日~12月9日  
毎週金曜日開催(全8回) 18:30~20:30

**会場** 宇都宮大学峰キャンパス UIJラザ2F

主催:宇都宮大学地域創生推進機構宇大アカデミー  
協賛機関: 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学  
顧問: (株)フロンティア創生 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学  
(株)宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学  
シニアアドバイザー(代表): 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学

(募集チラシ)

**◆令和4年度ニューフロンティアプログラムの受講者アンケート結果 N=8**

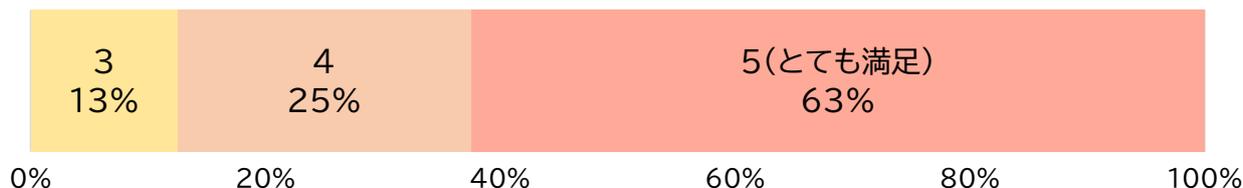
**年齢**



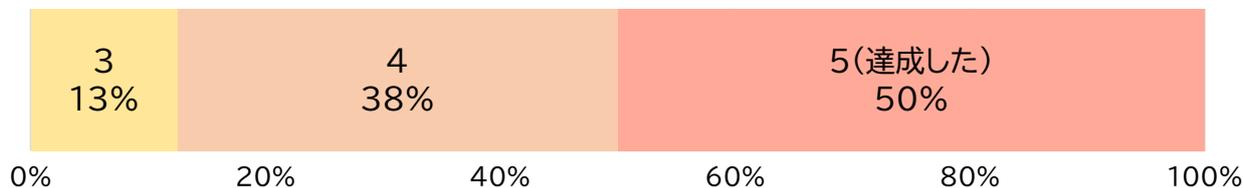
**職業**



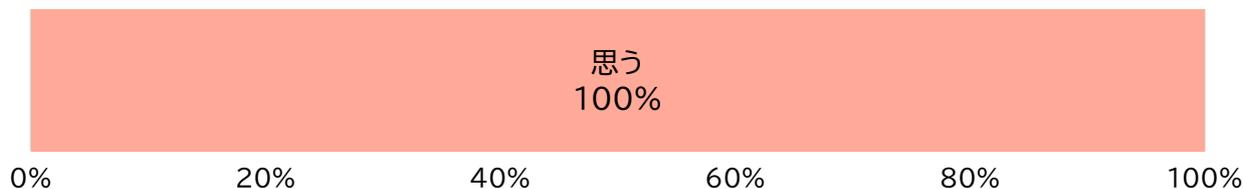
### プログラムの満足度(とても不満は1、とても満足は5)



### 当初目的の達成度 (達成しなかった場合は1、達成した場合は5)



### 受講により今後、ビジネスや社会貢献等、実際の新たな共創につながると感じますか。



### 受講者の満足度及び成果等

プログラムの満足度については、5段階評価の「とても満足5」と回答した受講者の割合は63%であり、その理由として「日々の生活がNFPへの参加で変わり人との関わりも変わったと思います」、「想像以上でした。当初はビジネス上のノウハウを共有することがメインかと思っていたのですが、もっと深く価値あるものでした。」などの記述が見られる一方で、「個人情報取り扱いについて不安を感じることがあり、会社の守秘義務やコンプライアンスが気になり、本来考えていたプレゼンを行いませんでした」といった意見もありました。

「本プログラムを受講することによって、今後、ビジネスや社会貢献等、実際の新たな共創につながると感じますか。」という質問には、全員が「思う」と回答しており、本プログラムが期待する成果を確認できました。

また、ニューフロンティアプログラムは、「本質的課題の明確化を参加者全員で徹底的に行えること」、「バックボーンを一切無視して本気で議論できる場(環境)」であることなどから、他の人にお勧めできるプログラムであるとの意見も多数いただきました。

## V 関連団体・その他

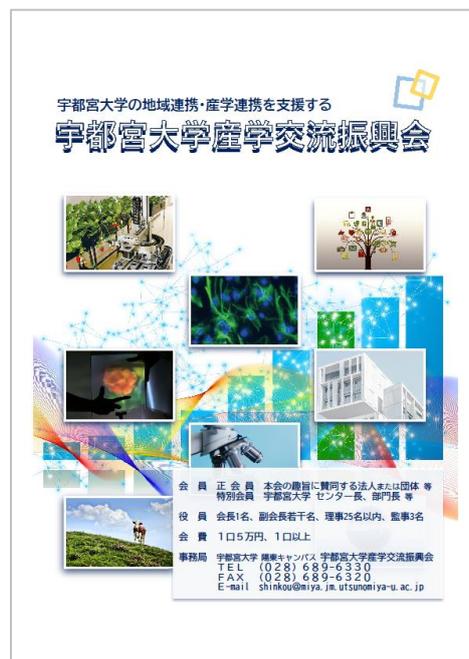
### V-1 関連団体 宇都宮大学産学交流振興会

地域創生推進機構は、宇都宮大学の外郭団体である宇都宮大学産学交流振興会(振興会)を管理・運営しています。

振興会は、宇都宮大学の地域連携・産学連携を担う部門が行う事業を支援し、産学官金の交流を促進することで、地域産業の振興に資することを目的として発足しました。(平成10年7月)

会員は、振興会の趣旨に賛同する法人又は団体です。主に栃木県内に本社または事業所を持つ企業や経済団体です。  
会員数 80企業・団体(令和5年3月31日)

令和4年度は以下を開催しました。



#### 宇都宮大学産学交流振興会定期総会開催(令和4年7月29日)

振興会の第24回定期総会を、令和4年7月29日(金)に本学地域デザイン科学部アクティブラーニング教室において開催しました。令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画・予算案が審議され、原案通り承認されました。また、総会後の講演会では宇都宮大学農学部応用生命化学科教授の飯郷雅之氏より、「産学交流振興会を活用した研究例 温泉トラフグ養殖、焼却炉の排熱を利用した農業システム構築」と題した講演をいただきました。

#### 研究助成

産学連携としての本格的な共同研究を始める足がかりを提供するため、振興会ではフィージビリティ(FS)研究補助を行っています。本年度は農・工分野で5件のテーマが採択され、総額143万9千円の助成を行いました。

#### オンラインサロン開催

宇都宮大学地域創生推進機構と振興会は、宇都宮大学が誇る講師によるオンラインサロンを無料で実施しました。本サロンは、振興会会員や地域企業の方に向け、宇都宮大学の様々な分野における教員が、最先端の研究内容や今話題の分野の講義を行うものです。本年度は1月と3月に2回 Zoom Meeting形式で開催しました。

#### ホームページリニューアル

広報活動をより一層充実させるため、振興会のホームページをリニューアルし、より分かりやすい情報発信を心がけました。

## V-2 大学コンソーシアムとちぎ・産学官連携サテライトオフィス事業委員会の運営支援

「大学コンソーシアムとちぎ」は、県内の高等教育機関が相互の連携・交流を強化することで、各大学等の教育・研究を充実・発展させると共に、広く地域社会や産業界の活性化に貢献することを目的に平成17年に設立されました。本学は、県内13大学等で組織されている「産学官連携サテライトオフィス」の事務局校として運営を担当し、本センターが担当機関としてその活動を支援しています。本学以外の参画校は、足利大学、宇都宮共和大学、小山工業高等専門学校、関東職業能力開発大学校、国際医療福祉大学、作新学院大学、佐野日本大学短期大学、自治医科大学、帝京大学、獨協医科大学、白鷗大学、文星芸術大学です(下図)。



大学コンソーシアムとちぎ産学官連携サテライトオフィス事業委員会 参加大学

令和4年度の「産学官連携サテライトオフィス」の主な活動は以下の通りです。

### ◆第19回学生&企業研究発表会(令和4年12月3日)

新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮して、分野別発表会を令和4年度11月12日から21日に発表動画視聴形式で実施し、最優秀選考会を12月3日に対面形式で行いました。学生から52件の発表があり、各分野からの金賞(関東経済産業局長賞など)、ポスター賞の他、協賛団体からの冠賞、協賛企業からは特別企業協賛冠賞が贈られ、総合優秀者には最優秀賞(知事賞)が授与されました。本学の学生は、栃木県経済同友会賞を始めとして、4つの賞を受賞しました。



第19回学生&企業研究発表会の様子

大学コンソーシアムとちぎ・産学官連携サテライトオフィスのホームページ  
<https://www.tochigi-satellite.jp/>

## V-3 発行物一覧

令和4年度に地域創生推進機構や各センターが発行した冊子やパンフレット、ニュースレター等。

宇大アカデミー



### 令和4年度 宇都宮大学公開講座 開催案内

令和4年4月発行  
宇大アカデミー 生涯学習研究開発室  
学内・学外向け

令和4年度の宇都宮大学の公開講座の開催案内。  
本学の公開講座のホームページで内容等を確認できます。

[https://www.utsunomiya-u.ac.jp/koukaikouza/pdf\\_2023/archive/course\\_r4.pdf](https://www.utsunomiya-u.ac.jp/koukaikouza/pdf_2023/archive/course_r4.pdf)

社会共創促進センター



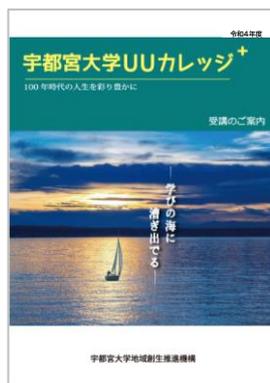
### 宇都宮大学 研究シーズ集 2022.04/09版

令和4年4月発行/9月発行  
社会共創促進センター URA  
学外向け

本学教員の共同研究につながる研究シーズを紹介した冊子です。コラボレーション・フェアや企業訪問等で配布しています。本センターの公式ホームページで公開しています。

<https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/tomotsuku/seeds>

宇大アカデミー



### 宇都宮大学UUカレッジ受講のご案内

令和4年7月発行  
宇大アカデミー UUカレッジ部門  
学外向け

UUカレッジの新規受講希望者に対する制度の説明と申込手続き等を案内する冊子です。

イノベーション支援センター



### 令和3年度 CDI活動成果報告書

令和4年8月発行  
イノベーション支援センター イノベーション部門  
学内・学外向け

イノベーション支援事業の2021年度年間報告書。  
本センターの公式ホームページでも公開しています。

[https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/CDI\\_ProgressReport\\_2021.pdf](https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/CDI_ProgressReport_2021.pdf)



### 第3回 宇都宮大学 コラボレーション・フェア プログラム

令和4年9月発行  
宇都宮大学コラボレーション・フェア事務局  
学内・学外向け

9月29日に開催された第3回コラボレーション・フェアのプログラムです。発表者や参加者一覧を掲載しています。



### 地域創生推進機構 令和3年度 事業報告書

令和4年12月発行  
地域創生推進機構  
学内・学外向け

本機構の令和3年度年間報告書。機構の公式ホームページでも公開しています。

<https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/kouhou>



### 地域創生推進機構NEWS Vol.15

令和4年12月発行  
宇都宮大学産学交流振興会  
学内・学外向け

本機構のニュースレター。学内、産学交流振興会会員の皆様を中心に配布しています。

**宇都宮大学 地域創生推進機構 令和4年度 業務報告書**

発行 宇都宮大学 地域創生推進機構

〒321-8505 宇都宮市峰350(峰キャンパス内)

TEL 028-649-5015

公式ホームページ <https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/>

発行日 令和5年12月

デザイン 下山せいら(表紙・本文) 三上直子(本文)

# アクセス

## 東京都内からの所要時間

### ◆JR東日本

東北新幹線 東京駅～宇都宮駅 約50分

東北本線(宇都宮線) 上野駅～宇都宮駅 約2時間

### ◆東武鉄道

浅草駅～東武宇都宮駅 約2時間30分



## 宇都宮大学 峰キャンパス

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

- 社会共創促進センター
- 宇大アカデミー
- コンソーシアムとちぎ

## 宇都宮大学 峰キャンパスまで

### JR宇都宮駅 東口から

- ・3番乗り場(関東バス)  
卸団地循環線 星の杜中学校・高等学校行、  
ベルモール行 乗車約10分  
「宇都宮大学前」下車 徒歩1分
- ・タクシー: 約 5 分

### JR宇都宮駅 西口から

- ・14番乗り場(関東バス)  
真岡行、益子行、星の杜中学校・高等学校行、  
ベルモール行など 乗車約10分  
「宇都宮大学前」下車 徒歩1分
- ・タクシー: 約 5 分

### 東武宇都宮駅から

- ・1番乗り場(関東バス)  
真岡行、益子行、星の杜中学校・高等学校行、  
ベルモール行など 乗車約25分  
「宇都宮大学前」下車 徒歩1分
- ・タクシー: 約 10 分

## 宇都宮大学 陽東キャンパス

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2

- イノベーション支援センター
- 宇都宮大学産学交流振興会

## 宇都宮大学 陽東キャンパスまで

### JR宇都宮駅東口から

- ・芳賀・宇都宮LRT(ライトライン)  
全ての便 乗車約10分  
「宇都宮大学陽東キャンパス」下車 徒歩9分
- ・3番乗り場(関東バス)  
星の杜中学校・高等学校行、ベルモール行  
乗車約10分「工学部前」下車 徒歩6分
- ・タクシー: 約10分

### JR宇都宮駅西口から

- ・14番乗り場(関東バス)  
真岡行、益子行、星の杜中学校・高等学校行、  
ベルモール行など  
乗車約15分「工学部前」下車 徒歩6分

### 東武宇都宮駅から

- ・1番乗り場(関東バス)  
真岡行、益子行、星の杜中学校・高等学校行、  
ベルモール行など  
乗車約25分「工学部前」下車 徒歩6分
- ・タクシー: 約20分